

平成25年度社会福祉法人福浜会事業報告

平成25年度末に障害者総合支援法の改正が行われ、平成26年4月1日から、障害程度区分から障害支援区分に変更され、また重度訪問介護の対象者の拡大、ケアホームのグループホームへの一元化などが実施されることとなった。

障害支援区分に改正されたことは、施設入所や家族との同居等、普段過ごしている環境ではなく、「自宅・単身」を想定して判断することになり、できたりできなかつたりする場合は「できない状況」に基づき判断し、自宅等の慣れている状況ではなく、慣れていない状況や初めての場所等でできない場合を含めて判断するとしている。支援度での判断は、その人の全体像をきちんと捉える基準となるよう望まれる。

平成25年度は、障害者虐待防止法や障害者差別解消法（施行は平成28年度）の成立、「障害者の権利に関する条約」の批准の国会承認など、今後の障害福祉の方向性を左右する特筆すべき動きがあった一年だった。その中に頻繁に出てくる「意思決定支援」や「合理的配慮」（社会的障壁の除去）については、障害があってもその人らしく地域の中で暮らしていくために、その中身を吟味し、すべての人が尊重し合い、共感できる環境作りへの一歩となるに違いない。

年度計画に沿って法人内のこの一年を振り返ってみると、まず潮の香の自立訓練事業との多機能型から生活介護事業単独への移行が挙げられる。移行後は、活動プログラムを工夫し、利用者さんの生活全般に潤いが得られ、幅広い活動が実現できるようという視点の下で順調に進められている。

次に重症児（者）を対象にした生活介護事業と障害児通所支援事業の多機能型（あにまあと）の現状について、年度当初は運営的に昨年度同様にかかなり厳しい状況が予想されたが、この一年、特別支援学校終了後に利用する放課後等デイサービス事業対象者（重症児）がかかなり増えたことで、事業の独立性が見えてきた。掛川市や森町からの希望もあり、医療的ケアの必要な人の利用も増えてきている。中遠自立支援協議会主催の重心の方を対象にした事業所説明会が2年続けて行われ、情報発信ができたことがその大きな要因である。

最後に、防災対策についてだが、今年度も防火管理者を中心とした防災担当者会議が行われ、大規模災害、危機管理に関するマニュアルの見直しが着実に進められている。不足している備品や新たに必要と思われる発電機等の備品類の購入も今年度行うことができ、防災資機材、非常用食糧品等についてはほぼ整備されてきている。次年度以降に検討が予定されているのは、さまざまな状況に合わせたマニュアルの改訂である。利用者の方たちが、より安全に安心して過ごすことのできる環境作りを今後も継続して模索していきたい。今年度磐田市と、障害のある人や高齢者等の災害時要援護者の福祉避難所としての協定締結に向けた動きがあった。現に施設を利用されている人だけでなく、地域の方の受け入れも考慮に入れた避難場所という認識を、当然であるが「地域貢献」という視点から私たちの役割を認識していかなければならない。

今後については、社会福祉法人の持つ役割をもう一度見直す時期に来ているのではないだろうか。地域に対して私たちにできることは何だろうか、地域の方と一緒に何ができるだろうか・・・など、法人側からの情報発信や働きかけを進めていく上で、地域住民の方や教育、医療などの関係者を交えて検討していく場を持ちたいと考えている。

平成25年度理事会

開催日	出席者数/ 理事総数	議 題
5/22	5 / 7	1 平成24年度社会福祉法人の県指導監査実施結果（通知）及び是正・改善計画について 2 平成24年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認（監査報告）
6/22	6 / 7	1 所轄庁の変更に伴う社会福祉法人福浜会定款変更について 2 社会福祉法人福浜会常勤職員就業規則等の改定について 3 福祉・介護職員処遇改善加算創設に伴う給与規程の改定について
11/9	5 / 7	1 社会福祉法人福浜会常勤・有期契約職員就業規則等の改定について 2 平成25年度本部及び施設会計の第1次補正予算案について
3/15	7 / 7	1 グループホーム一元化に伴う汐風運営規程の変更について 2 平成25年度本部会計及び施設・事業会計の補正予算案について 3 平成26年度法人及び各事業所事業計画について 4 平成26年度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について 5 報告事項 松ぼっくり 建物借用について はまぼう 外壁等修繕について

平成25年度評議員会

開催日	出席者数/ 評議員総数	議 題
5/22	10 / 15	1 平成24年度社会福祉法人の県指導監査実施結果（通知）及び是正・改善計画について 2 平成24年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認（監査報告）
6/22	11 / 15	1 所轄庁の変更に伴う社会福祉法人福浜会定款変更について 2 社会福祉法人福浜会常勤職員就業規則等の改定について 3 福祉・介護職員処遇改善加算創設に伴う給与規程の改定について
11/9	12 / 15	1 社会福祉法人福浜会常勤・有期契約職員就業規則等の改定について 2 平成25年度本部及び施設会計の第1次補正予算案について
3/15	14 / 15	1 グループホーム一元化に伴う汐風運営規程の変更について 2 平成25年度本部会計及び施設・事業会計の補正予算案について 3 平成26年度法人及び各事業所事業計画について 4 平成26年度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について 5 報告事項 松ぼっくり 建物借用について はまぼう 外壁等修繕について

平成25年度はまぼう・あにまあと活動報告

1. 在籍者の状況

はまぼう 平成25年度の定員30名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況

区分		月	25年	5	6	7	8	9	10	11	12	26年	2	3	合計
			4									1			
入所			1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
退所			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男		25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	
	女		12	12	12	12	12	12	12	12	12	13	13	13	
	計		37	37	37	37	37	37	37	37	37	38	38	38	

あにまあと 契約者数

区分		月	25年	5	6	7	8	9	10	11	12	26年	2	3	合計
			4									1			
生活介護			7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	
児童発達			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
放課後等			7	8	10	11	12	12	12	12	12	13	13	14	

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分		月	25年	5	6	7	8	9	10	11	12	26年	2	3	合計
			4									1			
入所			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	計		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

2. その他の利用状況

区分		月	25年	5	6	7	8	9	10	11	12	26年	2	3	合計
			4									1			
養実 護習 等生	人員		0	0	5	0	0	0	0	0	2	0	0	0	7
	利用日数		0	0	12	0	0	0	0	0	6	0	0	0	18
実研 習修 ・生	人員		0	2	2	1	11	7	7	8	2	2	3	3	48
	利用日数		0	6	6	2	15	20	15	10	2	8	9	9	102
見学 者	件数		3	2	2	0	2	0	0	0	2	0	0	0	11
	人員		8	2	2	0	2	0	0	0	2	0	0	0	16
ポテ ライ ンア	延人数		24	42	21	32	24	24	29	26	25	19	27	29	322
	特記														

3. 活動の状況

活動全般について

はまぼう・あにまあとでは、自分がやってみたいと思う活動を、所属するグループにこだわらずに選択する形態を継続してきている。新たに通所された方のニーズ等も考慮し、できるだけご本人の意向に沿うプログラムを実施してきた。しかし、障害児療育など、経験不足の面も否めず、今後は福祉の視点だけでなく、教育・医療の関係者とも交流を図りながら、一人ひとりに適した活動・療育を心掛けてきた。

重心多機能事業あにまあとでは、身体機能保持のためのふれあい体操、二人のリフレクソロジーによるリフレクソロジーを実施したが、重い障害を持つ感覚刺激であるスヌーズレンについては、十分その目的を果たせなかった。

利用者さんの希望を取り入れながら、土曜日にレクリエーション活動を実施。職員による工夫も見られ楽しい時間を過ごせている。今年度も、スカイハウスの日陰を利用し、夏場の暑い時期に日陰で流しそうめんを家族とともに楽しんだり、水遊びをするなど、季節に合った活動を実施することができた。

施設でのグループ活動や個別体験なども、工夫をしながら取り組むことができた。個別体験は、個別面談時にご本人・家族と相談し、その希望を個別支援計画に記載し実施することができた。また本人会であるはまちゃん会も、クリスマス会や豆まきなどの行事を計画・主催した。

健康面では、医療的なケアが必要になった重心の方、50歳を過ぎ体調に変化が出てきた利用者さんなど、心配なことも出てきている。主治医や協力医との情報交換の重要性が増している。家庭との密接な連絡体制をとっていきたい。

4. グループ活動報告

らでいっしゅ

グループの主な作業活動は、受注作業・縫製の自主製品・アルミ缶リサイクル・園芸・外部作業を中心にぽぷりん工房・ふぁーれ・オズグループと3つのグループに別れ行った。外部作業以外はグループのメンバーにとらわれず、利用者さんのやりたい作業を選択し、行っていった。

(1)ぽぷりん工房

①受注作業

ブリヂストンのキャップ分離作業を行う。作業を2工程に分け、それぞれが出来る工程を担当した。必要な利用者さんに対しては補助具を使用するなどして、利用者さんが自分で出来ることで自信にも繋がっていった。また、近年キャップ分離作業が減って来ている為、新しい作業であるLD塗装下キャップ清掃作業（ブリヂストン）を始める。細かい作業であるが、利用者さんに合わせた補助具作るなどし、少しずつやることが出来た。

②さをり織り

さをり織りは個性を大切にしている為、利用者さんが縦糸・横糸の選択、織り方まで本人に任せることでオリジナルの作品を作ることが出来た。織りあがった布は縫製作業によって製品化し、同じものがひとつと無いオリジナルのさをり織りは好評を得ている。

暮らしの菓音は、見て知ってもらえる機会の場として、委託も含め継続して参加させていただくことができた。

③縫製

さをり織りで織りあがった布の個性を生かせるように考え、携帯入れや巾着・ふくろう根付などの製品に仕上げた。トートバック・ポーチ・ペンケースなどの製品については、ボランティアさんの協力も頂いた。

また、作る物や生地・ボタンの色を利用者さん自身に選んでもらうことで、自分で仕上げた達成感を味わうことや、製作意欲の向上にもつながった。

④クリスマスツリー

スプレーで色塗りをする担当・飾り付けの担当と利用者さんが別れ、それぞれ個性のあるツリーを楽しみながら仕上げる事ができた。

⑤印刷

パソコンが得意な利用者さんが年賀状作りを行った。プリンターが変わり、戸惑いもあったが、利用者さん自身が考えながら自信をもって実施することが出来た。

(2)オズグループ

①アルミ缶リサイクル

毎週月曜日福田地区内を缶回収に廻り、缶つぶしを行った。毎週火曜日に缶運搬を実施。より買い取り金額の高い業者へ缶の運搬を行った。利用者さんの活動としてはプルタブ取り、缶つぶしに作業工程を分けることで作業に幅ができた。

②園芸・畑

11月～1月の間、県庁玄関等に飾る30鉢のプランター作りをメインとして実施。グリーンバンクで頂いた種を育て苗作りを行った。県庁への納品・回収も利用者さんと行い通常とは違う活動で楽しむことが出来た。

野菜作りはボランティアさん主体で、さつま芋・玉葱を作り、利用者さんと収穫。採れた野菜は販売したり、みんなで焼き芋をして楽しんだ。

(3)ふぁーれ

請負作業の工程も一人ひとり定着してきたため、作業の進み具合が早くなった。個々に行う数もたくさんできており、ミスも少なくなってきた。ほりずみ内職が無いときや、早く内職が終わってしまったときに、代替りの作業として、オズグループと協力し、缶回収や缶運搬を行い、意欲的に取り組んでいる様子がみられた。また新しい請負作業（シートカバーの袋詰め）の話もあるため、前向きに検討していきたい。

(4)外部作業

①コーケン工業

法人内施設利用者6名で、磐田市竜洋にある工場に通い、部品の組み立て作業（金具にゴムをはめる作業）を行っている。

約6年目になるが、仕事にも慣れ、作業内容もほぼ固定されているので、仕事のスピードも上がり、分量も増えてきている。新しい部品も増え、難しい工程もあるが、大きなミスもなく安定して取り組んでいる。

次年度からは、今よりも作業量が増えることになったため、一人一人が責任を持ちながら作業に取り組んでいきたい。

②於保老健施設・さくらの苑

各施設とも週1回、シート交換を行ってきた。それぞれが協力し合いながら、仕事に取り組んでおり、スムーズにシート交換ができるようになった。大きな失敗やミスもなく、一人一人がきちんと仕事をしているという意識を持って取り組んでいた。

さくらの苑については、職員が付き添わずに行っている。利用者さん3名と、少ない人数での作業で、個々の負担は大きくなるが、困った時には職員に聞きながら皆で協力をして取り組むことができています。

(5)販売（ぽぷりん工房・オズグループ）

出来上がった製品・野菜等は、はまぼう前の無人販売や地域のバザー、そるとぼっと販売所、アプレゲール、お茶の山大園、iプラザで販売した。地域との関わりを深めるためにも作品展示会などに積極的に出展することで、意欲的に製品作りができた。地域のバザーでは、さをり織りの携帯入れは好評で、ぽぷりん工房の看板製品となっていた。野菜等も施設玄関前の無人販売や地域のバザー等で好評であった。

その他の活動について

(1) グループ活動

＜朝・帰りのミーティング＞（ぽぷりん工房・オズグループ）

- ・ 進行は曜日ごとに当番を決め、利用者さんが主体となり、やる気をもって行えた。
- ・ ミーティング後にラジオ体操を実施し、体を軽く動かすことで作業活動にスムーズに移ることが出来た。

＜グループ活動＞

- ・ オズグループとふぁーれは合同でグループ活動を行い、外出としては富士山静岡空港へ行き、お弁当を食べながら飛行機の離発着を見て楽しんだり、袋井市内のハンバーグレストランで食事を楽しんだ後に、エコパ内を散策した。秋の収穫シーズンには、畑で収穫したさつま芋で焼き芋パーティーを実施し、皆で楽しむことが出来た。ぽぷりん工房では、掛川市22世紀の丘公園で1日のんびりと過ごしたり、うなぎパイ工場への見学に行くなどして楽しんだ。
- ・ 宿泊体験は3グループに分かれ、それぞれの希望にあわせ、活動することが出来た。

(2) スポーツ等の個別活動

高齢になってきた利用者さんもおられる為、スポーツ体験に限らずに料理作りや買い物などの生活体験を含めた活動を、少人数で個々の希望に合わせ、相談しながら実施した。それぞれの利用者さんが体を動かしたり、日頃出来ない生活体験をする事が出来た。（希望者のみ実施 実施状況 表1）

(3) 個別体験

本人の希望等で外出先を決め出掛けた。他のグループとも協力し合いながら行い、それぞれの希望したものや体験させたい外出が実施出来、楽しめた様子であった。（希望者のみ実施・実費徴収 実施状況 表2 他グループと協同実施も含む）

表1. スポーツ体験等の個別活動

実施日	内 容（行き先）	参加利用者人数	職員人数
8月27日(木)	プール（竜洋B&G）	2名	1名 【研修生1名】
9月 6日(金)	ウォーキング（油山寺）	2名	2名
10月22日(火)	マレットゴルフ（浜岡）	2名	2名
12月 2日(金)	ウォーキング （浜松ガーデンパーク）	1名	1名
2月 5日(水)	ボーリング （袋井グランドボウル）	5名	2名
2月13日(木)	料理作り（豚丼・みそ汁・デザート）	4名	2名
3月14日(金)	料理作り（シーフードカレー・サラダ・プリンアラモード）	3名	1名
3月17日(月)	外食体験（五味八珍）	1名	1名

表2. 個別体験

実施日	内 容 (行き先)	参加利用者人数	職員人数
9月 6日(木)	伊勢湾フェリー 鳥羽水族館	3名 (他グループ4名)	3名
11月 5日(火)	浜松フラワーパーク	5名	3名
11月 7日(月)	のんほいパーク (豊橋市)	3名	2名
11月28日(木)	買い物・食事 (浜北区内)	3名	2名
12月 2日(月)	浜松ガーデンパーク	1名	1名
1月 9日(木)	映画・食事・買い物 (ららぽーと磐田)	1名 (他グループ2名)	2名
2月 6日(木)	電車体験・買い物・食事 (浜松駅周辺)	2名	1名

カラース

グループの主な作業活動は、クッキー作り・紙工芸・粘土細工・パン作り・菓子作りを中心に、あにまあと・工房ぱおの2グループに分かれて行った。

(1)あにまあと

[1]概 要

利用者数 12名 (生活介護利用者4名、重心多機能型利用者7名、日中一時1名)
 <車椅子11名 うち全面介助者9名、気管切開・ネブライザー吸入・経管栄養1名、胃瘻造設・経管栄養・鼻腔及び口腔吸引1名、気管切開・経管栄養・鼻腔及び口腔吸引1名、口腔吸引1名、経管栄養1名>

[2]活動のまとめ

重複障がいのある利用者さんを中心に、感覚・色彩等を感じる事の出来る作業を多く取り入れながら、体調に留意しつつ無理のない範囲でグループの皆が協力し合える活動を行った。

[3]主な作業内容 ～ クッキー作り・紙工芸・粘土細工 (小麦粉粘土) ・手芸品

①クッキー作り

利用者さんを中心にそれぞれ自分の出来る工程を担当し、バザー等での販売、バレンタインデーやホワイトデー等、季節に合わせてご家庭に向けて注文販売も行った。利用者さんの活動ペースに合わせる事が難しく忙しい時期もあったが、利用者さんにとっては無理なく活動できたと思う。

a. 生地作り工程

バター・砂糖の攪拌、鶏卵の攪拌、生地を練る作業を行う。バター・砂糖の攪拌と生地を練る作業は、材料をビニール袋に入れることで、その感触を楽しみながら作業することが出来た。

b. 型抜き・成型・焼く工程

成型は主に重複障がいを持った利用者さんが行った。生地をラップに包みテーブルの上や手のひらで平らにするが、程よい厚みで出来る様になった。型抜きを自分の仕事として前向きに取り組む利用者さんの姿もみられたが、厚みにばらつきもあり注意を促しながら進めた。

c. 袋準備・袋詰め工程

シール貼り、クッキー・乾燥剤の袋詰め、袋綴じを流れ作業で行った。袋詰めは補助具を、袋綴じはシーラーを使用して、重複障がいのある利用者さんを中心に職員と一緒にいった。袋綴じは職員の声掛けで確実にを行うことが出来た。

透明な袋に飾りリボンは見た目にも良く好評であった。飾りリボンを作る作業ができる利用者さんがいて、仕事の幅が広がり喜びとなった様である。

②紙工芸

色彩を感じることの出来る作業を行うために折染めを取り入れ、それをノート・鉛筆の製品にし、紙すきで作った葉とセットで販売。その他、利用者さんの連絡帳・B5版ノートやメモ帳、爪楊枝入れ、グリーティングカードも販売した。新製品として、壁掛けやペン立てなども製作した。

折染めは個々の自由な感性で染めるため個性的な製品が出来上がった。ノート・鉛筆の糊付け作業は、重複障害のある利用者さんに限らず、それ以外の利用者さんも一人で行うのは難しく、大半の人が介助や確認を必要としていた。

紙工芸製品はバザー等で幅広い年齢層の方に購入してもらう事が出来た。

③粘土細工

マグネット製品を中心に製作した。動物や野菜・花・食べ物など身近な物の形をマグネットに貼り付け、ガチャポンのケースに入れ販売しており子供さんに好評である。製品のケース内転倒防止のためセロテープで補強し対応した。近隣のお店や利用者さんのご協力によりケースの入手はできた。小さな細工を利用者さんが作ることは難しいが、職員と一緒に、指先や手のひらで平らにしたり丸めたりし、作る楽しさを味わえた。

④タオルたたみ

袋井整体さんから依頼されているタオルの洗濯とたたむ仕事も定着してきている。枚数が多く、利用者さんは乾いたタオルをたたむ工程のみの関わりになっているが、タオルの感触や仕事の充実感を感じている様子がみられた。

[4]その他の活動

①朝・帰りのミーティング

毎日、利用者さんが交代で司会をして進行。出欠席の確認やその日の活動内容の確認をしたり、その日の反省・感想等を話してもらう様にした。一日の活動を自分の意思で選択できる利用者さんが増え、あにまあと以外の活動にも積極的に参加する姿もみられた。

②散歩・外気浴・足浴

出来るだけ外の空気に触れられるよう、体調に注意しながらはまぼう周辺の散歩・玄関前での外気浴を行った。利用者さんの数に対し職員の数が少ないため、車椅子利用者のマンツーマン対応が必要となる散歩は一度に全員が出ることは難しく、短時間の交代で出ることとなった。また長い時間外気にあたると疲れてしまう利用者さんも居たため、散歩を短い距離で済ませたり室内で待っている事もあった。又、歩ける利用者さんが車椅子を押すなど、他グループの利用者さんとの関わりもあり仲間意識の向上が見られた。

冬季は車椅子利用者さんを中心に、足浴（場合によっては手浴）を多目に行い、体を温めると共に全身の緊張を和らげる様にした。他グループからの希望者もあり、リラックスした時間を過ごすことが出来た。鼻歌がとび出す利用者さんもあり、皆喜んでいた。

③レクリエーション

利用者さんから自分のやりたいものを聞いたり、職員が出した複数の選択肢の中から利用者さんが選んでいった。普段あまり体を動かす機会の少ない人たちが多いため、ペットボトルボーリングやトランプ・百人一首（坊主めくり）・すごろくゲームなど室内でも楽しめる

ことを行った。音声を楽しむCD紙芝居も内容を毎回利用者さんに選んでもらい、リラックスした時間を過ごしながら楽しむことが出来た。

④外出・外食・納涼会

ボランティアさんの協力を得ながら、グループ外出（竜洋海洋公園・5月）、納涼会（はまぼう・8月）、年度末の食事会（はまぼう・3月）を行った。

納涼会は今年で8回目となり、グループの恒例行事となっている。夕食のカレー作りや花火など夜までの活動であるが、事故もなく皆楽しそうに参加出来ていた。納涼会の延長を利用し、今年度は初めて時重心利用者さん2名の宿泊を実施した（はまぼうにて）。初の試みであったが、家庭では出来ない体験が出来たようでご家族も喜んでいた。

⑤個別外出

- ・マックスバリュート買い物&福田漁港ドライブ… 1名 9月
- ・リニア鉄道館（新幹線乗車体験）… 2名 11月
- ・ららぽーと磐田買い物… 2名 1月
- ・新造形創造館… 2名 3月
- ・マークイズ静岡… 3名 3月

⑥ふれあい体操

月2回、スポーツグラマーによる柔軟体操やマッサージ・触感覚運動・関節運動を行い、心身の緊張をほぐしリラクゼーションを促した。リハビリを兼ねたゲームや工作は利用者さんが楽しんで参加することが出来た。職員は、利用者さん個々の障害程度に合わせた体操の仕方や注意点等を教えてもらい対応した。

⑦リフレクソロジー

毎週1回、1回に3人（一人約30分）リフレクソロジストによる足裏マッサージ（施術前には足浴を実施して足を温めておく）を受け、リラックスした時間を過ごす事ができた。足裏刺激が良い効果となっている。

⑧食 事

個々に食べやすい形を探り、刻み食（みじん切り・小口切り・一口大）やミキサー食の対応をした。

(2)工房ぱお

[1]主な作業内容

①パン作り

- ・各利用者さんが「買出し」「計量」「粉ふるい」「袋入れ」「販売」等に取り組んでいる。
- ・現在、15、6種類を作成。
- ・定期販売 火…第2、4週→磐田市役所販売 第3週→福田支所販売
水…第1週以外→喫茶ペンギン（iプラザ内）
木…はまぼう・そるとぽっと販売
- ・各種バザー、地域交流会にも出品した。

②菓子作り

- ・一人ひとりが、作業の手順を覚え、自分の得意分野を主に担当しながら作業できていた。また、新たな作業工程にチャレンジした利用者さんも数名見られる。シーラーによる「袋しめ」は、職員と声を掛け合いながらであるが、袋入れは、ほとんどの利用者さんが一人で行なうことができていた。また、袋の準備（シール貼り・スタンプ押し）も以前よりスピーディーに仕上げられるようになっている。
- 「クッキー」「パウンドケーキ」「マドレーヌ」「シフォンケーキ」「ブラウニー」「くるみとレーズンのカップケーキ」「コーヒーちょこマフィン」

- 「チョコチップマフィン」
- 「黒ごまプリン」「レアチーズケーキ」「ゼリー」（夏季限定）
- 「スイートポテト」「ガトーショコラ」（秋冬限定）

・各種バザー、地域交流会での販売を行なった。

③内 職（ブリヂストン）

自分たちで協力しながら作業を進めることができ、昨年より「準備や片付けをする」という意識も強くなって積極的に取り組むことができるようになった。また、新しい請負作業（シートカバーの袋詰め）の話もあり検討中。

[2]その他の活動内容

個別外出

グループの方同士でなく、他のグループの利用者さんや職員とでかける人もあり、普段とはまた違った楽しい外出となったように思われる。

9月	伊勢湾フェリー体験・鳥羽水族館	4名
1月	映画・食事・買い物(ららぽーと磐田)	2名
3月	浜松エアパーク	1名

グループ活動

9月	宿泊体験	今年度は「竜洋キャンプ場」ではなく「はまぼう」にて実施。数年ぶりのはまぼうでの宿泊ではあったが、楽しめた様子である。
3月	うなぎパイファクトリー 見学・外食	昨年引き続きお菓子工場の見学に出掛けた。お菓子の甘い香りにみんなの顔も笑顔であった。昼食はココスで摂り、各々がメニューを見て好きな物を注文。普段とは違う昼食に嬉しそうな様子であった。

5. 土曜日レクリエーション

土曜日の通所日を利用して、レクリエーション的活動を、年間8回行った。

工作活動やお菓子作り、参加者全員で一緒に楽しめる企画が多く、利用者さんの笑顔や笑い声が印象的であった。

日付	内 容
5 / 11	メッセージカード作り
8 / 3	納涼会準備
8 / 10	水遊び
8 / 17	納涼会
9 / 21	水遊び
9 / 28	流しそうめん
11 / 2	ミニ運動会
3 / 8	お菓子作り（ホットケーキ作り）

6. 行事・バザー報告

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	年度始めの会(1) 個別面談	鈴木千 各G						
5	個別面談	各G	○		ぶらすフェスティバルバザー(4) 磐田学園わかばまつり	田中・古川 酒井	呼びかけ ○	呼びかけ
6	ウォーキング() 大掃除()	古川、坂本 環境美化委員会	○ ○		ヤマハジャンボリー(2) 磐田北高校文化祭()	酒井 坂本	○ ○	○ 呼びかけ
7	開所記念日(1)	伊藤・酒井(高橋)						
10	地域清掃 地域交流会(26) ◎加藤、伊能、辻堂、(鈴木千)	環境美化委員会	○	○	さわふれ交流会(未定) 地域交流会不用品バザー	カラーズ		○
11	ふれあい作品展(30~12/8)	古川【そ・松】	○		ふくでふれあいまつり(3) フェスティバル豊田(3) 光る子まつり16)	辻堂【松】川島 本田 伊部【松】高塚	○ ○ ○	○ ○ ○
12	大掃除(4) ヤマハ労連観劇(5)	環境美化委員会 伊部	○ ○	○	施設製品即売会(9)	伊能+【そ】		
1	新年会・成人を祝う会(6) 個別面談	伊能・辻堂 各G						
2	個別面談	各G			出雲殿中泉葬祭展(1)	鈴木千		
3	年度納めの会・感謝の集い(7) 個別面談	ボランティア係 各G			ワークピア祭りバザー(9)	加藤		
《備考》 ・グループ活動: 外食、外出等随時実施。(ボランティアさん参加) ※料理作り・スポーツ;各活動グループ毎に随時実施。 ・個別体験;個人の希望に沿って時期・場所等を設定。 ・個別面談は、2~3月に実施。					《毎日販売》 ・アプレ・ゲール ・iプラザ 《その他販売》 ・はまぼう販売、観音寺販売 ・ドルチェ倉庫販売(3、6、9、12月) ・お茶の山大園 ・そるとぽっと販売所			

7. 音楽活動

(1)音楽療法

2グループに分かれて月に一度ずつ音楽療法士が中心となり実施。個々の障がいに合わせて工夫がなされており、参加者は自分で選んだ楽器を使ってリズムや音を感じたり、ハンドベル演奏・歌・ボールや体を動かすリトミックなど、音楽を通して普段の活動では味わうことのできない体験を楽しんでいた。

(2)ともしびコンサート

音楽活動をしているNPO法人に依頼し、月1回、季節感のある音楽(歌)や楽器に親しむ機会を設け、室内コンサートを開催していただいた。童謡からクラシックまで幅広い音楽に触れられる機会、参加者は演奏を聴いたり皆で歌ったり、楽しく過ごすことができた。

8. 環境美化委員会

(1) 2カ月に1回の委員会は、開催できないときもあったが、今年度は合同の委員会を開催することができ、それぞれ各施設の問題点・改善点などを話し合うことができた。細かい点についてはもう少し話し合いを行い、再確認をしていく必要があった。

日頃の環境美化については、職員一人一人が意識して取り組めるよう、委員を中心に呼びかけをしていく必要がある。また、室内、倉庫などの整理整頓も日頃から心がけていく必要がある。

毎日の清掃については、職員一人一人が、美化につとめ、協力しながら行う事が出来ているが、細かい部分については、引き続き呼び掛けを行い周知徹底をしていく必要がある。

(2) 大掃除については、年度始めにアンケートをとり、希望日に合わせ参加の呼びかけをした。家庭へのお知らせや準備、事前に担当場所等を知らせたことで、戸惑う事なく進めて行くことができた。

今年度は、夏季・冬季大掃除を水曜日に実施した。それぞれ協力しあい、全体的にスムーズに行う事ができた。やりきれない部分については午後の時間に職員が行うことができた。

- (3) ゴミの分別については、徹底されつつあるが、まだまだ曖昧なところがある。また来年度からは、ゴミの分別が一部変更になるので、ゴミ処理についても再確認し、より細かい部分にまで注意が行き届くよう、伝えていく必要がある。また、クリーンボックスを設置することで、大きなゴミの処理もスムーズに行うことができた。

9. 安全委員会

(1)利用者の方の安全確保

- ・ 委員会内での話し合い、事故防止・再発防止策検証チェックを行い、事故防止に努めるよう情報収集、安全管理体制の見直しを行った。
- ・ 「事故報告書」「ヒヤリハット報告書」の集計・活用。

(2)防災

- ・ 避難訓練を毎月1回、避難訓練計画に合わせて実施。
- ・ 法人全体で防災内部研修の実施や緊急時安否確認名簿作成・配布を行った。
- ・ H23年度より、各施設・事業所の防火管理者による防災担当者会議を開催し、大規模災害時の対応等について協議を重ねるとともに、発電機、MCA無線機などの備品等の整備を実施。

(3)施設設備（環境）の保全管理

- ・ 設備自主検査を9月、3月に実施。
不具合箇所 … 詳細については、建物・設備等点検結果表ファイル参照。

(4)安全運転管理

- ・ 春、秋の安全運転管理協会の街頭指導に参加。
- ・ 安全運転管理協会の事務局だよりの連絡。

(5)緊急事態への対応

- ・ 緊急事態（車両等の事故）に対しては、各職員がマニュアルに従い、速やかに対応出来ていた。
- ・ 今後も、マニュアルの検討を重ね、分かり易く対応しやすいものにしていく。

10. 生活・保健衛生委員会

(1)健康診断及び記録について

健康診断は春と秋に実施。検査当日の欠席者については、レントゲン撮影は個々にかかりつけの病院等へ行き全員実施した。検尿・検便は随時はまぼうで行い、保菌検査は職員、クッキーやパン作業に関わる利用者さん、食事介助に関わるボランティアさんにも毎月実施した。

血圧については、健診当日は慌しさの影響を受け正しい数値が測定できない場合もあるため日を改め測定した。

健康診断の結果については、嘱託医に確認・捺印を頂き各家庭への報告をした。必要に応じて家庭への電話連絡も行った。（通院については家庭にお任せした。）

記録については、個人表、一覧表、嘱託医訪問記録、検査結果等、随時記入するようにした。

服薬は変更があったら随時書き換え記録するようにした。

(2)体重測定について

毎月月初めに実施した。連絡帳に体重表（カード）をはさみ、家庭に連絡し確認印をいただいた。測定の結果を健康チェックの目安とし、食事量を加減したり通院時に持参する家庭もあった。

(3)機関誌について

保健だよりは、必要に応じて随時《お知らせ》として発行した。

ノロウィルスやインフルエンザについては、緊急のお知らせ（情報公開や予防法）等を各家庭に配布し、注意を呼びかけた。

(4)衛生面について

身だしなみについては、連絡帳等で家庭と連絡をとり対応しているがまだ徹底されつつあるが、改善の必要な人がいるので、引き続き本人や家庭に働きかけをしていく。

ハンカチ所持を呼びかけていることで個人での所持率は高まったが、今後も声掛けが必要。

トイレでのスリッパへの履き替えが定着していない人もいるので、今後も対策が必要。

寝具については布団、毛布の天日干しがあまりされていなかった。

(5)病気予防について

食中毒や風邪・インフルエンザの予防のため外から帰った時や、食事の前にうがい・手洗いの声掛け・マスク着用を促した。そのため職員が率先して行なう姿勢が多くみられた。

ノロウイルスに関して汚物処理のための消毒薬(3ヶ月ごとの交換)の留置、週一回施設内の消毒薬での拭き掃除を徹底した。

部屋の換気や加湿器の使用を心がけ衛生面に注意した。

感染症についての職員研修を行い、施設内での感染予防を促した。

(6)防虫防鼠について

環境美化委員会にて大掃除やバルサン実施。

(7)日用品・医薬品について

トイレットペーパーやボックスティッシュ等、在庫確認の上、随時発注するようにした。医薬品については、使用期限の確認と在庫チェックの上、必要に応じて発注・補充した。

個人で昼に服薬がある利用者さんについては、服用の確認と声掛けを行った。

(8)着替えについて

最近では、利用者さん一人ひとりが自分の着替えを持ってきているため、ほとんど貸し出すことはなかった。

(9)歯磨き・うがいについて

各自で食後の歯磨きやうがいを行っていたが、全員が出来ているわけではない。うがいのできない利用者さんもいるが、食後にお茶を飲むだけでも良いと思う。

仕上げ磨きについても習慣づけられている利用者さんはいるが、全員に目が届いているわけではないため、今後も声掛けをしていく。

11. はまちゃん会（利用者本人会の代表者会）

主に土曜日の通所日を利用して11回開催した。

恒例となったはまちゃん会主催でのクリスマス会や豆まき会もスムーズに企画・実施する事ができ、利用者さんの自信や楽しみにつながった。

第1回 4/27(土)	今年度の計画	第7回 12/21(土)	クリスマス会反省
第2回 6/1(土)	意見交換会	第8回 1/11(土)	豆まき会について
第3回 9/14(土)	地域交流会について	第9回 1/18(土)	豆まき会
第4回 11/2(土)	クリスマス会について(その1)	第10回 2/15(土)	豆まき会の反省
第5回 12/7(土)	クリスマス会について(その2)	第11回 3/15(土)	今年度の反省
第6回 12/19(木)	クリスマス会		

12. 内部研修

水曜日午後の時間を利用し、年間計画に従い研修担当者で起案を立て内部研修を実施した。

平成25年度は、法人全体研修6回（感染症対策1回、職員のための体操1回含む）、自己評価

に関する研修1回、年間7回の研修活動を実施した。地域生活支援・放課後等出井サービスとの兼ね合いもあり、職員全員参加は難しかった。

また人事交流研修については、他施設の職員の受入れ1回、他施設への派遣2回行うことができたが、各施設の職員体制や利用者の方の状態の兼ね合いで受け入れ態勢が十分に整わず、研修目的を達成しきれなかったといえる。出張報告については実施ができなかった。

来年度は定期的に研修を実施して職員意欲向上に努めていきたい。

日付	内容	担当者
5/29	地域療育支援センター・計画相談・ケアホーム 地域生活支援事業の事業報告、日中活動支援部会全国大会基調講演について（合同研修会）	研修担当
6/5	日中活動支援部会シンポジウムについて 理事長の話（合同研修会）	研修担当
9/4	保険の話、DVD鑑賞（自閉症）、 山田施設長の話（合同研修会）	外部講師 研修担当
10/30	職員のための体操	外部講師 研修担当
11/27	感染症対策、職員のメンタルヘルスについて 理事長の話（合同研修会）	生活保健委員会
2/26	自己評価話し合い	研修担当
3/29	自己評価各施設発表、DVD鑑賞「生命のことづけ」、 理事長の話（合同研修会）	研修担当

13. 相談・福田チーム検討会

施設等で受ける相談については、リーダー・地域生活支援担当者を中心に、市町指定相談事業所・地域療育支援センターなどの関係機関と連携をとりながら、地域からの相談に応じる。内容は、通所に関する相談・学齢児の長期休暇時や放課後の支援相談・進路相談、在宅者への支援等。

また福田地区在宅者のケース検討会(福田チーム検討会)に参加。地区内の各機関が一致した認識をもつことができ、協力して地域生活支援を行っていく土台作りの場となっている。今年度は5回実施した。

14. 中遠地域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱(厚生労働省通知)に基づき、障害福祉に関するシステムづくり(相談支援事業等)のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置し、幹事会、代表者会、作業部会(専門部会)をもって構成されている。

中遠地域自立支援協議会への参加については、今年度も法人全体で担当職員を決めて、その職員を中心に必要に応じて職員も参加した。

作業部会(精神部会、知的・身体部会)に参加するとともに、知的・身体部会では、「乳幼児期」「就労」「地域生活支援」「重心部会」「防災部会」の各専門部会に参加、そして「地域生活支援専門部会」では、6つの課題別検討会～「グループホーム」「ショートステイ」「相談支援事業から見える在宅支援」「送迎サービス」「余暇支援」「自閉症・行動障害」～にそれぞれ積極的に参加。

これらの内、「グループホーム」「送迎サービス」「自閉症・行動障害」の担当責任者及び「地域生活支援専門部会」全体のまとめ役や「防災部会」も福浜会が担当している。また今年度から、「知的・身体部会」の「重心の在宅支援検討会」が「重心在宅支援専門部会」としてスタートしたが、当法人が担当責任者となった。この「重心部会」では、今年度も相談支援事業所や協力施設並びに特別支援学校と協力して、平成25年12月9日に2回目の事業所説明会を開催した。このような情報発信が継続していくことが望ましい。また次年度は、自立支援協議会として中遠地区と東遠地区合同の中東遠圏域の会議を、圏域スーパーバイザーと協力して開催する計画である。方向性として、医療関係者にも呼び掛け、幅広い分野からの参加者を交え、在宅支援サービスの充実に向けた取り組みしていく予定である。

15. 重症心身障害児(者)の在宅支援に関する会議

下記の会議に参加。重心ネットワークは、はまぼうがまとめ役となり、西部地区相談支援事業所の協力の下、静岡県西部地区ネットワーク幹事会を開催。1回しか開催できなかったが、今回は、福祉（相談支援、施設）・当事者団体だけでなく、教育・行政の方々にも参加していただくことができた。次年度も、各地区の育成会、県や市町の行政機関も交え、在宅支援サービスの充実に向けた取り組みをしていきたい。また今年度開催できなかった西部地区全体の会議を、浜松重心子ども支援ネットワーク（浜松発達医療総合福祉センター遠藤雄作医師）と連携しながら開催したいと考えている。

以下、参加している会議

- ・ 静岡県主催：「重症心身障害児(者)在宅支援推進連絡調整会議」
 - 「重心看護従事者養成研修」
 - 「重心介護従事者養成研修」
 - 「重心ケアマネジメント従事者養成研修」
- ・ 静岡県重心在宅支援重心ネットワーク会議

平成25年度そるとぽっと活動報告

1. 在籍者の状況

平成25年度の定員20名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況は次の通り

区分	月	25年									26年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	
	女	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	

【在籍者障害程度区分】 区分6→3名、区分5→4名、区分4→10名、区分3→5名

2. その他の利用状況

項目	月	25年									26年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
特実 支習 等生	延人員	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	6
	利用日数	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	6
実研 習修 ・生	延人員	0	4	4	6	0	0	3	13	2	8	4	0	44
	利用日数	0	2	4	5	0	0	1	3	1	4	2	0	22
見 学 者	件数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	人員	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	35
ポテ ライ ンア	延人数	0	0	0	0	13	8	0	5	5	0	6	0	37
	特記								ミニ運動	クリスマス		豆まき		

3. 活動全般の状況

平成25年度は利用者さんの入退所はなく、出席率は在籍者22人中、19.5人だった。グループ編成を3グループから2グループに戻したため、出来る限り一人一人が落ち着いて楽しく過ごせるように配慮した。また、職員の異動と退職が重なってしまったため、利用者さんには環境の変化から不安な思いを抱かせてしまった。半数の職員が新しくなり利用者さんとの関係づくりを優先したため、計画通り活動を展開して行くことが難しくなってしまった。

作業活動では、受注作業と自主製品作り、お茶の注文販売と販売所での自主製品や焼き菓子等の販売を状況に合わせて行った。作業の入荷量が減少傾向にあることに加え、作業以外の活動も充実させていく必要があり、結果的に作業収益は減ってしまった。

その他の活動では、外出や散歩、体育館で身体を動かすことや、新たにお湯の中で手をマッサージする手浴を行った。また宿泊体験や個別体験、水泳、ボーリング、カラオケ、調理、音楽鑑賞等、皆さんがそれぞれに楽しめる活動を実施した。

4. 作業活動について ※グループに関係なく利用者さんの希望する(得意とする)作業を行った。

(1)キャップ分離作業(ブリヂストン)

部品をキャップ、カバー、ウレタンに分離する作業。入荷量が減少しているため、得意としている利用者さんを中心に継続して取り組んできた。

(2)LDキャップ(ブリヂストン)

新しく始めた作業で、小さな部品にコーティングされた樹脂を指先で剥がす作業。得意な利用者さんを中心に行った。

(3)割箸袋入れ(藤本商会)

入荷量が安定していた。紙のさやに割箸を入れる、ビニール袋に入れる、爪楊枝を入れる、ビニール袋を閉じる、おしぼりをポケットに差しこむ、という工程があるが、利用者さんができる工程をそれぞれ分担して行った。

(4)ポストイング(アドポストイング)

2ヶ月に1~2回、磐田駅の南東地区まで出かけ配布物をポストに投函した。配布エリアを安全な地区に限定したので収入は減ったが、天候や職員配置を気にすることなく、利用者さんが交代で参加できた。

(5)キャンドル作り(自主製品)

主に材料のロウを砕いたり、砕いたロウを型に入れる工程で参加し、手作りのキャンドルを作った。きのこキャンドルや可愛い物に人気があった。

(6)ポストカード作り(自主製品)

パソコンのペイント機能を使い、季節に合ったカードや新たなテーマを決めて新作をこつこつと作成した。

(7)ハンガーモップ作り(自主製品)

ワイヤーハンガーに短く切った毛糸をくくりつけ、成型した後に目鼻をつけてカラフルで表情豊かな「ハンガーモップ」を作成した。

(8)エコビーズアクセサリ作り(自主製品)

利用者さんが描いたり色付けしたペットボトルを、オーブンで焼いてビーズを作り、ストラップやブレスレットを作成した。

(9)お茶注文販売

新茶、水出し煎茶、年末年始のシーズンに注文販売を行った。

(10)製品販売

特にパン販売は好評だったが、事情により販売量が減ってしまったことはとても残念だった。
i プラザや花うたでの委託販売は、あまり売上が伸びなかった。

5. その他の活動について

(1)施設行事

①ファミリーウォーキング(5/11) ※雨天中止

②宿泊体験(6/14~15、6/28~29、7/12~13、7/26~27、8/23~24)

希望者21名の内19名がそるとぼつとに宿泊、2名は1日目のみ参加した。5グループに分け実施し、大衆浴場に出かけたりファミリーレストランで好きなメニューを食べたりして楽しく過ごした。

③流しそうめん(8/17)

家族と一緒に、駐車場で流しそうめんを行った。みんなでサラダを作り、そうめんと一緒にいただいた。利用者さんと家族、31名が参加。

④ミニ運動会 (11/9)

南島体育館を借りて、はまぼうと合同で行う。楽しく汗を流した後は農環センターでお弁当をいただいた。利用者さん14名、民生委員ボランティアさん6名が参加。

⑤ヤマハ労連チャリティー公演 (12/5)

劇団四季「桃次郎の冒険」にご招待いただく。普段体験できないダイナミックなステージを楽しむことができた。利用者さんと付添のご家族、19名が参加。

⑥クリスマス会 (12/25)

クリスマス会を楽しんだ後、グループ毎に分かれボランティアさんと一緒にカレーライスを作り、クリスマスケーキと一緒にいただく。利用者さん22名、ボランティアさん6名が参加。

⑦新年(成人)を祝う会 (1/11)

今年の抱負を皆で話し、新成人2名をお祝いした。後半はグループに分かれ初詣に出かける。利用者さん20名が参加。

⑧豆まき (2/12)

ボランティアさんと一緒に豆まきをして、ホットケーキ作りを楽しむ。利用者さん22名、ボランティアさん6名が参加。

(2)個別体験

利用者さんの希望に沿って一緒に楽しめる内容を計画し、少人数で出かけた。

- ・ 5/23 フラワーパーク(舘山寺) 4名参加(付添2名)
- ・ 7/9 名古屋港水族館(名古屋) 4名参加(付添3名)
- ・ 7/18 フルーツパーク・時之栖(都田) 2人参加(付添2名)
- ・ 9/17 ウォーキング(袋井) 2名参加(付添2名)
- ・ 11/29 大東シートピア(掛川) 3名参加(付添2名)
- ・ 12/10 フラワーパーク・バイキング(舘山寺) 3名参加(付添3名)

(3)料理作り

土曜日のレクリエーションやグループ活動の中で、南瓜蒸しパン、かき氷、ホットケーキ、手作りチョコを作って食べた。

(4)スポーツ・文化活動

利用者さんの希望を受けて、水泳(6名)、ボーリング(3名)、カラオケ(6名)をそれぞれ小グループで楽しんだ。

(5)その他の余暇活動

壁面装飾の共同製作や季節に合わせた絵を描き施設内に掲示したり磐田市ふれあい作品展に参加。体力作りも兼ねて外出やウォーキングを実施したり、近くの体育館でボール遊びやバドミントン等身体を動かした。はまぼうで行われる「ともしびコンサート」に希望者が参加した。

6. グループ活動報告

せさみグループ (男性11名、女性1名)

生活面で身体的な介助や見守りを必要とする方が多いので、ご本人の思いや希望を伺いながら、個人のペースに合わせた活動を行った。

(1)作業活動

主にブリヂストン、自主製品作成(キャンドル、ハンガーモップ、ポストカード、エコビーズ)を行った。

(2)その他の活動

火曜日の午後に外出、木曜日の午前には体育館で体を動かす活動、金曜日の午後に活動場所の清掃を継続して行った。夏場の暑い時期にはビニールプールに水をはって水風船等で水遊びを楽しんだ。冬季には温水の中でマッサージをしながら手浴を行った。

月曜日、水曜日、木曜日とそれぞれ決められた日に出せるよう、ゴミの取りまとめとゴミ捨て場までの運搬を行った。

(3)グループ活動

掛川にある「やくわり」に行き、アイスクリーム等を食べた。また、パフェ作りを行った。11月にご家族も参加していただいたのグループウォーキングを行った。初の試みだったが、それぞれに楽しむ姿が見られた。

みんとグループ (男性8名、女性2名)

グループメンバーの変更と職員の入れ替りが重なったことで、全体的に不安定な時期があり、落ち着けない利用者さんが多かった。そんな状況の中でも、グループを越えて全職員で関わり個別対応が必要な利用者さんへの支援も行うことができた。個々に強い拘りがあり、変化に弱く、互いの行動に影響を受けやすい利用者さんが多いため、落ち着いて過ごせる環境と安心できる人間関係に配慮した。年度の半ば頃には次第に安定して活動できるようになった。作業中は比較的落ち着いていられる人が多いので、安定した作業量を確保したり、作業工程の工夫や作業環境の見直しなどを行った。

(1)作業活動

主な作業として割り箸、ブリヂストンを行い、期間の仕事としてポスティングを行った。はまぼうへ出向き缶つぶしも行ったが、回数は少なかった。

(2)その他の活動

体育館活動や午後の外出で身体を動かす時間をつくった。室内作業が多く運動不足になりがちなため、気分転換も兼ね週1回の外出を年度後半に2回に増やす取り組みもした。

月1回のともしびコンサートには、希望者が参加し楽しい時間を過ごした。

(3)グループ活動

環境の変化があり落ち着かない時期があったため、お楽しみ会を実施することができなかった。年度末に会食をおこなった。

7. 委員会活動

(1)保健委員会

家庭と連絡を取りながら、利用者さんの日々の体調の把握を行なった。大きく体調を崩して欠席する利用者さんはなく、皆さん元気に通うことが出来た。

毎月1回、体重測定を実施してきたが、体重の増加が目立つ利用者さんがいるため、家庭と連絡をとり対策を考えていきたい。

健康診断は、はまぼうや松ぼっくりへ出向き、採血やレントゲン検査を行なった。

必要に応じて、保健便りを発行し、流行性疾患への注意の呼びかけや対処方法を伝えた。また、職員合同研修では、感染症について再確認した。

(2)環境委員会

家族の協力を得て、6月と12月に大掃除とワックスがけを行った。また、6月にはバルサンを散布して害虫駆除を行った。ごみのない清潔な状態を維持できるよう、毎日活動終了後に部屋とトイレの掃除を行い、水曜の午後には、モップがけと感染予防のための手すり消毒を定期的に行った。

ごみの分別は、週に3日それぞれのごみの回収日に合わせて、また古紙やペットボトルについても、活動中に利用者さんと一緒に運搬して処分した。

施設周辺の取り組みとしては、活動の中で草取りを行い、夏から秋にかけて職員が駐車場や隣接する河川敷の草刈りを行った。

(3)安全委員会

利用者さんの事故予防と安全運転の確認を毎月行ない、「ヒヤリハット」の提出をすることで事故防止の意識を高めた。「ヒヤリハット」は4月に6件が重なっており、利用者さんの不安定な時に起きてしまうことが多かった。状況を十分に意識していれば、未然に防ぐことが出来たと思われるので、今後につなげて行きたい。

毎月、火災または地震を想定した避難訓練と総合防災訓練（11月）を実施し利用者さんと職員の防災への意識を高めた。防災担当者会議（防火管理者出席）を定期的で開催し、法人内の防災対策の見直しを行った。

10月と3月に設備自主検査を実施。壁等の傷みが増えてきたが、応急処置で済ませ今のところ問題はない。

〔ヒヤリハット〕 8件(5名)

内訳：飛び出し(2)、交通事故(1)、その他(5)

〔事故〕 3件(2名)

内訳：自傷(1)、転倒(1)、その他(1)

8. 地域社会との関係

- (1) 広報活動として、「ふくはまの風」を法人施設と協力して発行した。「そるとぼっと通信」の発行が予定より減ってしまった。
- (2) 販売所に来ていただいた地元のお客様と触れ合ったり、近隣を散策して地元の方への挨拶を積極的に行なった。
- (3) 地元の民生委員さんをはじめボランティア及び実習生の方を受け入れ、利用者さんと交流していただくことで理解を深めるよい機会になった。
- (4) 法人内の各事業所、ご家族と協力して「地域交流会」に参加した。地元の方や大勢のボランティアさんのご協力をいただき、音楽や模擬店を中心とした楽しいイベントに参加できた。

9. 家庭との関係

連絡ノートに施設と家庭の様子を記入して日々の情報交換を行った。必要に応じて電話連絡や自宅を訪問し様子伺いをした。個別支援計画作成時には全ての家庭と面談を実施し、また個々に家庭からの相談を受け面談を実施した。

大掃除(6月と12月)、流しそうめん(8月)、活動参観・懇談会(3月)を家族参加で実施した。恒例のファミリーウォーキングと地域交流会は悪天候により中止となった。

10. 苦情解決体制

苦情の受付は1件「送迎時の職員の対応について」。こんな一言聞きました報告書として4件「地域支援の送迎について」「利用者さん同士の関わりについて」「送迎時の職員の対応について(2件)」を受付した。受付けた内容についてはお詫びをして、職員間で検証し意識を高めた。

11. 会議・職員研修の実施

利用者さん本位の質の高い支援を実現するため、職員の専門知識の獲得と技術の研鑽はとても大切なことである。そのため積極的に外部の職員研修等へ参加したり内部研修を実施した。

更に、身に着けた知識や技術を支援の中で有効的に生かすためには、職員のチームワークがとても重要になる。職員間の共通理解を深めるために、日頃から情報交換を密に行い、職員会議・グループ会議・ケース検討会を定期的また必要に応じ実施してきた。

内部研修としては、職員会議の中で文献等の読みあわせや出張報告を行った。法人内職員合同研修については、他施設担当者と連携をとり、臨時開催も含め年6回実施した。

各施設の研修担当者による合同会議を定期的に行い、合同研修会のあり方や自己評価等について検討を重ねた。

平成25年度内部研修

日付	内 容	担当者
4/17	ケース検討	研修担当
5/29	<第1回合同研修会> ・地域療育支援センター ・計画相談 ・地域生活支援事業 ・ケアホーム事業報告 ・理事長講話	担当職員 理事長
6/5	<第2回合同研修会> ・社会福祉実習指導者講習会報告 ・平成24年度日中活動支援部会 シンポジウムについて ・理事長講話	担当職員
7/10	ケース検討	研修担当
8/21	ケース検討	研修担当
9/4	<第3回合同研修会> ・保険の見直しについて DVD鑑賞 ・「自閉症の人が見ている世界」第1巻 ・管理者からの話 ・理事長講話	外部に講習依頼 研修担当 管理者 理事長
10/2	「自閉症の人が見ている世界」第2巻 DVD鑑賞	研修担当
10/30	<第4回合同研修会> ・職員のための体操	外部に講習依頼
11/27	<第5回合同研修会> ・法人内予算と現状について ・感染症について ・職員のメンタルヘルスについて	理事長 保健委員会 担当職員
12/18	ケース検討	研修担当
1/22	ケース検討	研修担当
2/19	ケース検討	研修担当
3/29	<第6回合同研修会> ・自己評価報告 ・「生命のことづけ」DVD鑑賞 ・理事長講話	研修担当 管理者 理事長

12. 地域生活支援

地域生活支援事業やライフサポート事業を利用して、施設利用者さんの時間外の支援及び地域の方の日中活動や法人内施設と連携して受け入れを継続した。

13. 相談業務・福田地区チーム検討会参加

各相談事業所や市町の担当者と連絡をとりながら、利用者さんのご家族や地域の方から相談を受け付けた。内容は、在宅生活を支えるための各支援について、特別支援学校卒業後の進路等について相談があった。

また、福田地区在住のケースについては、各関係機関によるチーム検討会に参加し、引き続き地域生活支援のケース検討を重ねた。

14. 中遠地域自立支援協議会

そるとぼっとでは、知的・身体部会に7回出席した。また、2月には「自閉症等在宅支援検討会」を松ぼっくりと共に開催し、各関係機関と当事者の立場として5人のご家族をお招きし、家庭の抱える課題について話を進めた。

知的・身体部会には、「こども部会」「進路・就労部会」「地域生活支援部会」「防災部会」「重心部会」の各専門部会があり、その中の「地域生活支援部会」には、課題別に「グループホーム・ケアホーム」「ショートステイ」「相談支援事業から見える在宅支援」「送迎サービス」「余暇支援」「自閉症等在宅支援」の各検討会があり、福浜会からは担当を決め積極的に参加した。

「地域生活支援専門部会」のまとめ役「重心部会」「防災部会」「自閉症等在宅支援検討会」の各担当を福浜会が行っている。

平成25年度松ぼっくり活動報告

1. 在籍者の状況

平成25年度の定員40名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況

区分	月	25年									26年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	31	31	30	30	30	30	30	30	31	31	31	31	
	女	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
	計	41	40	40	40	40	40	40	40	40	41	41	41	

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月	25年									26年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	計	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	

2. その他の利用状況

項目	月	25年									26年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
特実 支習 等生	人員	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3
	利用日数	0	0	5	0	0	0	9	1	0	0	0	0	15
実研 習修 ・生	人員	0	0	0	2	2	0	4	6	0	0	1	0	15
	利用日数	0	0	0	20	6	0	4	6	0	0	10	0	46
見 学 者	件数	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	2	0	6
	人員	1	0	2	1	1	0	0	0	0	0	3	0	8
ポテ ライ ンア	延人数	10	11	10	11	6	10	12	12	9	7	11	12	121
	特記													

3. 活動の状況

活動全般について

今年度は、Wish、スマイル、ビジョン、樹の4グループでの活動が確立し、動きだした年となったが、年度途中で職員の異動等もありその変化をどう一緒に乗り越えていくか、悩んだ年でもあった。又、家族の方はもちろん利用者さん本人の年齢の高齢化や介護保険制度との兼ね合いなど、家族のみなさんや本人を取り巻く環境の変化も、大きく感じられた年ともなった。年齢によって、体調に変化が出てきた利用者さんがいることもあり、主治医や協力医との情報交換の重要性を感じたこともあった。自己選択、自己決定権を保障することはもちろんであるが、その上でいかにそういった変化に対応していくのか、通所施設として役割とその機能について、考えさせられる機会も多かった。

仕事については、引き続き(有)フスマ商会、コーケン工業(株)といった企業内での仕事、さくらの苑、於保老健センターでのベッドメイキングの仕事、そのみ園でのしいたけ収穫、公園清掃といった外部作業に取り組んだ。又、グループごとに請負の仕事やリサイクル、自主製品づくりを行い、1日のうち少しの時間でも自分の仕事に向き合う機会をつくった。

午前は作業活動を行い、午後は散歩やレクリエーションを行う点は、今年度も同様であった。そのほか、今年度もグループ活動や個別の活動を実施した。

4. グループ活動報告

Wish

安心して取り組める作業、利用者さんの思いを取り入れた午後の活動等を計画する中で、本人が心地良く過ごせる環境を整えた。利用者さんとの思いを認め合う中で、関係作りを大切にしてきた。利用者さん一人一人が自分の思いを伝え、こちらの思いも伝えることで、共に気持ち良い時間を感じることが少しずつできるようになってきた。

① 作業

個々の作業場所を用意して、本人の仕事が分かりやすく取り組めるようにしている。また、本人と向き合う中で、作業時間や作業量等を調整し、気持ち良くできるようになってきている。

しいたけ作業については、長い年月を通し関わることによって、楽しく参加できるようになってきている。

- いちごのポット作り（鈴木農園）
- アルミ缶・スチール缶リサイクル／回収・缶つぶし・運搬（三光）
- 自主製品作り（メモ帳・連絡ノート・観葉植物）
- しいたけ作業／週1回 5～6月、11～3月（森町 そのみ園）
- ふすま組立て作業／週1～5回（(有)静岡フスマ商会）
- お茶の委託販売（恵松学園）
- リングはめ（コーケン工業）

② 午後の活動

午後の活動はリフレッシュすることを心掛けてきた。散歩や公園で身体を動かし、ゆったりとした時間を過ごしたり、室内活動（カラオケ等）や図書館で共に楽しんだりしてきた。また、桜を見たり、かき氷を食べたり等、季節感を共に味わう機会も取り入れた。

作品展では、1枚の模造紙にみんなで絵を描いて1つの作品を作った。また、編み物も一緒に作る方もいた。共に創り上げることを大切に、出来た喜びを味わった。また、本人の趣味や特技を紹介する場にもなった。

③ その他の活動

グループ外出・宿泊体験等は、皆で行き先、行き方、食事場所等の意見を出し合う中で、計画を立てた。また、一人一人がそれぞれの楽しみを持って参加でき、終わってからそのことを楽しく思い出し、嬉しそうに話したりする様子も感じられた。

- グループ外出（10月 都田総合公園 浜松市）
- 個別外出（のんほいパーク・サンサンファーム・静岡空港・浜名湖パルパル）
- 宿泊体験（10月 竜洋オートキャンプ場）
- クリスマス会（12月 喫茶どんぐり）
- 新年会（1月 小国神社）
- 年度納めの会&送別会（3月 松ぼっくり）

スマイル

利用者さんひとりひとりにとって1日の見通しが立ちやすいカリキュラムを組むことで、安心して活動に参加できるように環境を整えた。

① 作業

利用者さんひとりひとりに合わせて作業を組み合わせていった。また、集中して作業を行える環境を整えていく中で利用者さんのエンパワーメントを高めていけるよう配慮した。様々な作業に取り組む中で個々のスキルアップ、能力の高さを改めて実感できた。

- ブリヂストン（キャップ分離作業）
- 堀住加工（シール貼り、袋入れ、ホチキス留め作業）
- コーケン工業（リングはめ）

② 午後の活動

午後は、「外出」を基本とし、ひとりひとりがリフレッシュできるよう心がけた。季節を感じながら身体を動かす良い機会となった。選択する経験、そして楽しみになるようにと外出先の自動販売機でジュースを購入する機会を作り、利用者さんの楽しみに繋がった。

③ その他の活動

○グループ外出・活動

季節に合わせて外出先を選び計画・実施した。グループ活動としては、時々おやつを持って公園へ出掛けた。利用者さんが楽しめるような活動を来年度も計画していきたい。

（お菓子作りなど）

- ・ 8月 浜名湖ガーデンパーク
- ・ 12月 クリスマスケーキ作り
- ・ 1月 初詣・小国神社

○個別外出

年に1回、希望者対象で実施した。各利用者さんが、楽しめるような場所や内容を計画したことで、普段とはまた違う素の表情を見せたりリラックスできる時間となったと思われる。

- ・ 4月 浜名湖遊園地「パルパル」
- ・ 7月 浜岡プール「ぷるる」&バッティングセンター
- ・ 11月 豊橋のんほいパーク

○宿泊体験（8/2～8/3）

松ぼっくりの施設を利用して実施。宿泊ということで落ち着かない一面も見られたが、入浴は、職員がマン・ツー・マンで付き添うことで問題もなく公共の入浴施設を楽しむ事ができた。地域のファミリーレストランの中からそれぞれ希望を聞いて食事もしめた。普段家庭では食べたがらないメニューを選ぶ方もいて、良い経験となった。

ビジョン

① 作業

- ・千栄加工（クリップ、カード入れなど事務用品の組立て）
- ・堀住加工（袋入れ、ホチキス止め作業）
- ・静岡フスマ商会（梱包用のダンボール作り）
- ・さくらの苑、於保老健センター（ベッドメイキングの仕事）
- ・缶回収
- ・公園清掃（ふるさと公園）
- ・コーケン工業（リングはめの仕事）
- ・倉沢製作（電池パックのフィルムはがし）

② 午後の活動

午前引き続き内職など仕事をする人もあれば、公園で身体を動かしたり、図書館でゆっくりと音楽を聴いたり、新聞を読んだりして、リフレッシュする人もありました。

内職や外出などの活動の他に、本人の希望を尊重し、施設外作業への参加も促した。

③ その他の活動

利用者さんのアイデアを活かしたり、思いを大切にしながら下記のように行事を行ってきました。全てを実現できたわけではありませんが、引き続き来年度へつなげていけるような活動を心掛けました。

- ・個別外出 … 個々の希望に沿って年1回実施しました。
(映画鑑賞、プロ野球観戦、カラオケ、温泉、買い物など)
- ・グループ外出 … 季節ごとの活動として、いくつかのグループに分かれて実施しました。
(小国神社、アクティ森、ぷるる、初詣)
- ・宿泊体験 … 8/23～24、8/30～31の2回に分かれて実施しました。
利用者さんたちが楽しみにしている年間行事のひとつになっています。日課を終えて、磐田の湯やリフレUで入浴を済ませてから、参加している皆さんの希望にそって外食をしました。夜は、仲間同士でおしゃべりをしながらお酒を飲んだり、テレビを見て楽しみました。また、職員とじっくり話をしている姿もありました。
- ・季節の行事…クリスマスの昼食会、節分豆まき、バレンタインデー
- ・おやつ作り…ホットケーキ、どらやき、あんみつ

樹 G

1人1人の思いを大切にし、伝え合う関わり、お互いの気持ちが変わり合える仲間作りを考えて過ごしてきた。また自分の気持ち等相談出来る関係を保ち、気持ちが安らげる環境を整えてきた。作業面ではそれぞれの目標を持ちながら、お互いに出来た事を喜び合ったり、助け合ったりして協力しながら完成させている。

活動面では、仕事とは違ったリフレッシュする時間の中で、楽しみと思いやりの心を持てることを大切にしてきた。また、少人数で活動することも多く、自分の気持ちを言い、相手を気遣う姿も見られた。

① 作業

気持ちよく作業に取り組めるよう、環境を整えながら、作業への意識、意欲が継続的に持てるように関わることを大切にしてきた。

- ・(株)コーケン工業（リングはめ作業）
- ・千栄加工（クリップ・カード入れ）
- ・堀住加工（袋入れ）
- ・公園清掃（ふるさと公園）
- ・(有)静岡ふすま商会（ふすまの組み立て・出荷用の箱・出荷時の衝撃緩和材作り）
- ・自主製品（曼荼羅アートのメモ帳・ノート）

② その他の活動

<午後活動>

利用者さんがお互いに意見を出し合って相談し決めた。自分の意見を言い、相手の意見を聞く中で、自分を通すこと、相手に譲ることができるようになってきた。

(内容：ドライブ、買い物、散歩、カラオケ、DVD鑑賞、

おやつ作り、パソコン、音楽鑑賞等)

<個別外出>

楽しみな計画でもあり、待つ間、当日も充実していたように思えた。しかし、思いがふくらみ不安になる姿もあった。

(主な外出先：ららぽーと磐田、浜名湖、志都呂イオンショッピングセンター、市野イオンショッピングセンター、のんほいパーク、いちご狩り等)

<グループ外出>

利用者さんが意見を出し合い、計画を進めてきた。その為、それぞれの楽しみ方をしてきた。来年度も継続して行っていきたい。

6.8月 ファミリーレストラン (デザートを食べに行く)

2月 五社神社、鴨江寺 (初詣とボランティアさんとの食事会)

3月 年度納めの会 (ボランティアさんとの食事会)

<宿泊体験>

利用者さんにご家族の方の意見を参考にして、9月に松ぼっくりで宿泊を行った。利用者さんが主体となって意見を出し合い内容を決めていった。それぞれのペースを大切に、無理なく過ごすことができるように心掛けた。宿泊当日は、昨年と比べて慣れてきたためか不安になることが少なく眠れた利用者さんが増えた。食事や買出しなどの場面ごとに、個々がそれぞれの楽しみ方をしてきた。

5. 音楽活動

【ともしびコンサート】

音楽活動を中心に活動しているNPO法人に依頼し、月1回、季節感のある音楽(歌)や楽器、歌のリクエストなどに親しむ機会を設け、室内コンサートを行う。「ともしびコンサート」も恒例となっており、演奏を聴いたり歌を歌ったり、皆で楽しい時間を過ごすことができた。

6. 環境美化委員会

◎大掃除・・・今年度は年1回実施した。ご家族の力を借りながら2日間で実施した。

第1回目・・・9月13日(金)、10月2日(水)

1日目・・・窓拭き外側・窓拭き内側・網戸・トイレ・草刈り・作業棟・外壁

2日目・・・部屋の掃除・部屋のWAX掛け・草取り・事務所

◎日常の掃除・・・毎日放課後にトイレ掃除・床のモップがけを行ってきた。毎週水曜日は清掃後にドアノブや手すり、机等の消毒も行った(スマイル作業棟は金曜日)。また、金曜日は活動に掃除を組み入れ、利用者さんと一緒に取り組んできた。

◎草刈り・草取り・・・地域交流会の前と第1回大掃除の時に建物周辺の草刈り・草取りを実施。

◎ゴミ出し・・・市の定める規則に従って収集日の前日にゴミの分別を行った。尚、集めたゴミを玄関に置きがちであったので別の場所に置くなど検討していきたい。

◎施設周りの美化と経費削減・・・施設の周囲に燃えやすい物がないか等の見回りや竹やぶに落ちているゴミの処分を行った。又、引き続き、無駄な電気や水の利用を控えるような働きかけやコピー用紙や裏紙利用の推進を図ってきた。

- ◎暑さ対策・夏場は作業棟周りによしず等を設置して暑さ対策を行ってきた。
- ◎防虫対策・10月1日(火)の放課後、施設内及び作業棟内において一斉にバルサンを実施。

7. 安全委員会

① 活動の報告と反省

- ・施設設備の安全チェックが年に2回行えなかった。
- ・9月に職員体制に大きな変化があったが、各グループで会議を重ねていく中で大きな事故にはつながらなかったように感じている。その一方で、変化にともなう事故報告やヒヤリハット報告が提出されており、各グループでの会議、職員会議でのケースの話し合いを深めている。
- ・車両の傷、凹みが多いにも関わらず、報告が少ない。会議などで促しているが今後の課題。

② 来年度に向けて

- ・今年度は職員体制の変化に伴う報告が多かったが、各グループでの話し合いの重点が置かれている。今年度も報告書の充実と話し合いの充実が一体となっていくようにしていきたい。
- ・施設設備は年2回を必ず実施したい。
- ・ヒヤリハット報告書、事故報告書に関する研修を行いたい。報告が少ない、という現状も踏まえて、報告の目的や意義などの再確認や危険予知に関するものを考えていきたい。

8. 生活・保健衛生委員会

・健康診断の実施

(春) ・レントゲン検査、採血、保菌検査、検尿、身体測定、嘱託医の問診。

(秋) ・採血、保菌検査、検尿、嘱託医による問診

⇒採血の結果、数値が高いため通院を勧めた家庭もあった。

- ・記録の管理・記入・・・健康記録表、健康診断個人表、健康診断結果表、嘱託医訪問記録、投薬記録の記入。⇒ 昼の薬はグループで管理をした。発作の記録は、不十分だったので年度末にチェックしていきたい。投薬記録の変更も十分でなかった。

⇒ 女性の利用者さんの突発的に起きた身体的トラブルであろう詳細や結果をケース記録に記入した。また、緊急時に対処できるよう、今後はグループホームとも連携し、月経日の確認をしていくようにしていく。

・個々人への衛生面への配慮

入浴、洗髪、整容、手洗いなどをチェックし声かけや家庭への連絡等を行なったが、改善されないケースもあった。

⇒ 松ぼっくりでは、インフルエンザやノロウイルスが流行る時期には、手洗い・うがいの声かけ、部屋の換気の実施などを積極的に行なった。水曜日の午後の清掃終了後、次亜塩素酸ナトリウムで消毒を行うようにした。しかし、スマイルグループでは、(利)4名・(職)3名がインフルエンザに感染してしまった。アルコールスプレーを用意し、毎日消毒を実施した。インフルエンザ予防のためにマスクも用意した。

・生活周辺の衛生面への配慮

日用品を随時チェックし、管理・補充を行なった。寝具の管理では、布団は使用後天日干しをするように努め、シーツなどは、使用後に洗濯をした。そのほか、医薬品の管理や着替えの保管等を行なった。

- ・保菌検査～利用者さんは、健康診断時(春・秋の2回)、職員は毎月実施した。
- ・『保健だより』の発行～今年度は2回発行。時期や状況に合わせた情報提供をした。
- ・体重測定の実施～毎月1回実施し、体重表を通して各家庭にお知らせした。
- ・職員研修～11月に合同研修を実施し、感染症の知識を再確認する機会を設けた。

9. 行事・バザー報告

月	行事等	担 当	参加者		バザー等	担 当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	年度始めの会 個別面談	各G 各G	○					
5	個別面談	各G	○		ぶらすフェスティバル(4)	【松】 【は】		
6	大掃除 ウォーキング	環境美化委員会	○ ○		磐田北高校文化祭 ヤマハジャンボリー()	【は】 【松】 【は】	○ ○	呼びかけ ○
10	地域清掃	環境美化委員会			さわふれ交流会			
11					フェスティバル豊田 光る子まつり() ふれあいまつり()	【松】 【は】 【松】 【は】 【そ】 【松】 【は】	○ ○ ○	○ ○ ○
12	大掃除(2) ヤマハ労連観劇	環境美化委員会	○ ○	○	ふれあい作品展() 施設製品即売会	【松】 【は】 【そ】 【は】	○	
1	新年会	各G						
3	年度納めの会 ・感謝の集い	各G		○				

10. 内部研修

年間計画を基に研修担当者で企画の立案と実施を行った。主に、水曜日の午後の時間を研修活動に充て、法人全体研修6回、内部研修会2回の計8回の研修活動を実施した。

今年度は合同研修会が中心であったが、DVDを通して自閉症についての理解を深められる機会を確保できたり、支援者のケアについて等、ユニークな内容も取り上げることができた。

次年度も支援向上のために、職員が興味や関心を持って研修に参加できるよう、幅広い観点から研修内容を検討していきたい。

<活動内容>

日 付	内 容	担当者
5 / 29	自立支援協議会、地域療育センター、計画相談、地域生活支援、ケアホームの事業報告、日中活動支援部会基調講演資料読み合わせ、理事長の話（合同研修会）	各担当者
6 / 5	日中活動支援部会シンポジウム資料読み合わせ、理事長の話（合同研修会）	研修担当者
9 / 4	自閉症についてのDVD鑑賞、山田施設長の話（合同研修会）	研修担当者
10 / 30	ケアする人をケアする会～心と身体をつなぐ体操～（合同研修会）	研修担当者
11 / 27	感染症について、職員のメンタルヘルスについて、理事長の話（合同研修会）	生活保健委員会
12 / 25	出張報告「静岡県通所施設連絡会 職員研修Ⅱ」 ロールプレイング「資質が高い職員とは？」 （内部研修会）	担当職員 研修担当者
3 / 19	自閉症についてのDVD鑑賞、自己評価について、所長の話（内部研修会）	研修担当者
3 / 29	自己評価各施設発表、防災DVD鑑賞、理事長の話（合同研修会）	研修担当

11. 苦情解決体制

平成25年度としては、苦情受付として1件、こんな一言聞きました報告1件という状況であった。内容についてはどちらも、支援やコミュニケーションに関する基本的な事柄ということで、あらためて、日々の活動を振り返る必要性と利用者さんや関係する人たちに真摯に向かい合う大切さを感じた次第である。

12. 相談・福田チーム検討会・地域療育支援センター事業

施設等で受ける相談については、リーダーを中心に、地域生活支援事業の利用希望については、地域生活支援担当者を中心に実施した。また、当法人の地域療育支援センター（結）や他法人の地域療育支援センター、市町指定相談事業所、就業・生活支援センターなどの関係機関と連携をとりながら、地域からの相談に応じた。内容は、在宅者への生活支援、通所に関する相談・学齢児の長期休暇時や放課後の支援相談・進路相談等。また福田地区在宅者のケース検討会（福田チーム検討会）に参加。旧福田町の時から継続しており、地区内の各機関が一致した認識をもつことができ、協力して地域生活支援を行っていく土台作りの場となっている。

13. 中遠地域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱（厚生労働省通知）に基づき、障害福祉に関するシステムづくり（相談支援事業等）のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置し、幹事会、代表者会、作業部会（専門部会）をもって構成されている。

中遠地域自立支援協議会への参加については、今年度も法人全体で担当職員を決めて、その職員を中心に必要に応じて職員も参加した。

作業部会（精神部会、知的・身体部会）に参加するとともに、知的・身体部会では、「乳幼児期」「就労」「地域生活支援」「重心の在宅支援」「防災部会」各専門部会に参加、そして「地域生活支援専門部会」では、6つの課題別検討会～「グループホーム・ケアホーム」「ショートステイ」「相談支援事業から見える在宅支援」「送迎サービス」「余暇支援」「自閉症・行動障害」～にそれぞれ積極的に参加。この内、「地域生活支援専門部会」全体のまとめ役をはじめとして「重心の在宅支援専門部会」「防災部会」「自閉症・行動障害」の担当等を福浜会が行っている。

平成25年度 潮の香活動報告

1 平成25年度の定員（20名）の月別在籍状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
男	14	14	14	14	14	14	14	14	14	15	15	15
女	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5
計	20	20	20	20	20	20	19	19	19	20	20	20

2 その他の利用状況

項目		月												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
特実 支習 等生	人員 延べ	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	11
	日数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	11
実研 習修 ・生	人 べ	0	4	8	2	0	0	0	4	2	8	4	0	32
	数 日	0	2	4	1	0	0	0	2	1	4	2	0	16
体見 験学 ・者	員 人	0	0	0	0	1	0	8	8	0	1	0	0	18
	数 件	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	4
ボテ ライ ンア	人数 延べ	5	7	6	6	3	3	7	11	8	12	10	9	87

3 活動の状況

(1)仕事について

本年度も、地域に根ざした自主製品の「祭典用のき花作り」、請負の「堀住加工有限会社（ヤマハのオートバイ部品）の袋詰め・ホッチキス留め」、「有限会社アイバ（ヤマハの船外機部品）の袋詰め・ホッチキス留め」、「ダイオ化成株式会社（網戸張替用ローラー）の袋詰め」の仕事を行ってきた。

また、地域の一員として事業所で働くことを考え、引き続き「コーケン工業（自動車部品）」と「静岡フスマ商会（襖の組立等）」と「カネ長水産（しらす加工）」へ出向を行ってきた。3月からは新たに「さくらの苑（ベッドメイキング）」にも出向を始めた。

《のき花製作》

今年度も福田地区祭典用のき花の、製作総本数約19,940本（約販売19,670本・寄付270本）を利用者さん・職員及びボランティアさんの協力を得て作業を進め、無事に出荷することができた。また、利用者さんの技量が向上したことで年々きれいな花になっており、地域の方からも「色がきれいだね」等の嬉しいお褒めの言葉を頂き、利用者さんの大きな励みとなっている。

※今年度も豊田地区と竜洋地区から注文を受ける。

《請負作業》

「ヤマハのオートバイ部品・船外機部品の袋詰め」を行ってきた。月によっては仕事量に差があり安定しないこともあるが、25年度は一年を通して比較的安定しており、ほとんど休みなく続けることができた。「ダイオ化成株式会社」の仕事は、網戸張替用のローラーを袋に入れてから箱詰めする作業で、主に1名が関わっている。また、ヤマハの仕事の合間を縫って行っている、電気部品のカプラへのダミー作業「有限会社マックス」は始めてから1年半経つが、細かな作業にも慣れ、今では好んで作業してくれる方もでてきている。

《外部作業》

地域への社会参加と就労支援の一環として、地域の事業所等に積極的に出掛けて仕事をする機会を作ってきた。

コーケン工業㈱には現在も男女4名が出向しており、新しい作業に挑戦したり作業量を増やしたりするなど、自分の持つ力を十分作業に発揮し、充実した毎日を過ごすことができている。

(有)フスマ商会とカネ長水産には、男性1名ずつが出向している。すでに長く働いているため事業所との信頼関係もあり、安定して出向できている。

また、3月からは、老人介護保険施設さくらの苑へベッドのシーツ交換作業に1名が出掛けている。見習い期間から一人前になれるよう励んでいる。

(2)その他の活動

毎日が作業中心の生活であるため、気軽に楽しめる活動を目指し年間計画を立てて実施してきた。各種行事・外出には利用者さんの意見を取り入れながら企画し、充実した楽しい活動内容となった。

①スポーツ・散歩・レクリエーション等

朝のラジオ体操・ストレッチ体操・散歩は毎朝励行してきた。ペットボトルに水を入れて利用したダンベル体操は、今年度もインフルエンザのことも考え12月からタオルを使うストレッチ体操に切り替えた。

今年度のスポーツはボウリング大会を行った。久しぶりのボウリングを思い切り楽しむことができた。

今後も、やりやすく利用者さんに適した運動はどんなものがあるか検討し、なおかつ楽しい内容で具体策を考えていきたい。

②料理作り

今年度は、作って食べる楽しみとしてお菓子作りを行った。リフレUの調理室を借りて、6月は「ちんすこうとフルーツヨーグルト」、11月には地域の方に頂いた紫芋を使い「スイートポテト」を作った。どちらも上手くできるか案じながらだったが、思った以上に美味しく出来て全員大満足だった。

③音楽・美術の鑑賞

美しいもの、創造的なものに触れるための美術鑑賞・音楽鑑賞会を積極的に行ってきた。美

術関係では、豊田図書館や磐田市図書館で行われた磐田市在住の作家の作品を鑑賞し、身近な風景画や人物画、工芸品等に親しむことができた。

音楽関係では、地域交流会で間近に楽器演奏や歌を聴き、一緒に歌ったり踊ったりすることができた。また、ヤマハ労連主催のチャリティー公演ではミュージカルを観劇し、大いに笑ったり歌ったりと楽しめた。

日常的な音楽活動は、利用者さんと季節ごとに選曲した歌を、朝の会で毎日欠かさず歌ってきた。今年度は「花は咲く」「野に咲く花のように」「雨のちハレルヤ」などを歌ってきた。合唱することによって、気持ちを一つにし、その後の作業に取り掛かることが出来た。

④野外活動（年間5・6回実施）

普段の利用者さんとのコミュニケーションから野外活動のヒントを得て、行き先等を決めてきた。そして、どの野外活動でも意欲的に取り組んでいた。

主なものとして、お花見は、今年度は浜松フラワーパークに弁当を持って出掛け、八重桜とチューリップの咲き誇る遊歩道を気持ちよく歩いたあと、花に囲まれながらおいしく昼食をとった。また、ウォーキングは親御さんにも参加して頂き、佐鳴湖を歩いた。水面を渡る風を感じながら自然の中を歩くことができ、心身ともに癒された一日となった。ミニ旅行は、島田ばらの丘公園と（株）明治東海工場へ行った。数え切れないほどの種類が咲く園内をのんびりと歩き、気分はリフレッシュされた。藤枝のサガミでお腹いっぱい食事をしたあとの工場見学では、生産ラインを見学できたことより、お土産を沢山もらったことで充実感があつた。

⑤個別体験

今年度も、年1回の個々が希望する体験を行った。個人や少人数で出掛け、それぞれ一日を楽しく過ごすことができた。

- | | |
|-----------------------|------------|
| ・ 5/28 釣り（福田漁港） | 1名参加（職員1名） |
| ・ 7/1 竹島水族館（蒲郡） | 5名参加（職員2名） |
| ・ 8/26 映画鑑賞 | 1名参加（職員1名） |
| ・ 9/19 豊橋総合動植物園（豊橋） | 3名参加（職員2名） |
| ・ 10/31 市内でカラオケ | 2名参加（職員1名） |
| ・ 11/18 温泉とバイキング（浜名湖） | 4名参加（職員2名） |
| ・ 4/2 SLと桜見物（大井川鉄道） | 2名参加（職員1名） |

⑥誕生日（BDショッピング）

利用者さんの誕生日に、朝の会等でお祝いの言葉をかけたり、買い物に出掛け決められた金額（500円）の中で好きなものを買ったりして、楽しく実施できた。（例：お菓子、靴下、CD、雑貨など）

⑦地域清掃

散歩をしながらゴミを拾う活動を行った。「ひろ道ウォーク」と名付けた活動で、少しでも地域のために役に立つこと、また、自分たちが気持ちよく歩けるようにと月に1回のペースで続けてきた。（冬期12月～3月は休止した）

時には地域の方に、「ありがとう」と声を掛けていただくこともあり、励みをいただいている。

(3)食事等について

- ・ ゆっくり噛みしめて食べたり、食事を楽しんだりしているので、食事時間のことについてはあまり細かく伝えないで様子を見てきた。
- ・ 健康に配慮しなければいけない方については、給食の油物を少し減らしたり、ソース・醬

油をかける量を減らしたりして支援を行った。

- ・ 食事前後のテーブル拭きを、自分から進んでできるようになった。
- ・ 食事後、食堂の床の雑巾がけを利用者さん全員の当番制で行ってきた。進んで取り組める利用者さんが多かった。

(4)健康管理及び安全

利用者さん一人ひとりの健康を維持し、体力の向上を図るために、次のような支援をしてきた。

- ・ 日常生活の衛生面においては、手洗い、うがい、歯磨き等の励行を強力に進めてきた。ドアノブや手すりなど頻繁に触れる場所は、週1回の消毒を行ってきた。なお、感染症の流行時期には毎日消毒を行ったが、今年度は残念ながら利用者さん2名、職員3名がインフルエンザにかかってしまった。他にも疑いのある方や風邪の症状で休む方も多く出てしまった。
- ・ 家での散歩など自ら進んで楽しむよう支援してきたが、自ら進んでできるのは一部の利用者さんだけであった。自転車から通所を徒歩に変えた方は、現在も続けられている。
- ・ 朝のラジオ体操・ストレッチ運動・散歩は毎日欠かさず実行できた。
- ・ 心の悩みを訴える利用者さんには定期的に話を聞いたり、表情や身体の変化が見られる利用者さんには職員から積極的に話し掛けたりして、その対応を図った。心の病はすぐには改善されないため、主治医との綿密な連携や職員による傾聴など、必要に応じて対応を考えていかなければいけない。
- ・ 通所のための自転車利用者に対しては、帰りの会等で毎日のように交通安全注意を呼びかけてきた。道交法の改正で、自転車の交通ルールがはっきりと決まったこともあり、本人や家族の不安も出てきている。そこで、交通安全教室などを開くことも検討したが未実施となったため、次年度は必ず実施したい。
- ・ 地震（津波）及び火災を想定した避難訓練を毎月1回実施し、安全で迅速な避難ができるようさまざまな場面での「予告なしの訓練」を行ってきた。また、非常時に使うために購入した発電機を、訓練日に併せ定期運転を行った。
11月11日は、磐田市消防署の協力を得て総合防災訓練を実施した。本所と作業棟それぞれで通常の屋外への避難を行った。また、職員による通報訓練や全員で消火器の取り扱い訓練を実施し、災害への対応を学んだ。
- ・ 法人各施設から防災担当者を組織し、毎月の会議の場で、「大規模災害時の対応マニュアル」の見直しや「緊急時安否確認名簿」の更新などを実施している。

(5)委員会活動

利用者さんの生活・健康管理並びに安全・環境整備等について、松ぼっくりと協力して委員会を設け、協議や活動を行ってきた。

①生活・保健衛生委員会

- ・ 健康診断の実施（5月15日、11月13日）

レントゲン、採血、嘱託医による問診、保菌検査（年2回）

身体測定（身長・体重）・検尿・血圧（潮の香で実施）、体重については毎月実施し、連絡帳の表に記入し家庭にお知らせした。

- ・ 個人の衛生面への配慮

入浴、洗顔、洗髪、整容、うがい、手洗い、歯磨きなどの励行の奨励と、家庭との連携を図ったがまだ十分ではなかったため、引き続き働きかけていく。手洗い・うがいは外出後、毎回必ず行い点検も実施してきた。歯磨きは食後に行い、出来たら印を付けるように決め、意識を高めている。

ハンカチの所持やトイレでの履き替えについては常に声掛けをしてきたが、十分ではなかった。

- ・ 職員研修会の中で、感染症や職員のメンタルヘルスについて学んだ。また、講師を招き「心と体をほぐす体操」を実践し、ストレッチや肩こり・腰痛予防について学ぶことも出来た。
- ・ 保健だよりを発行し感染症の予防を早めに呼びかけた。
- ・ 生活習慣病検診や、婦人病検診の対象者には家庭との連絡を取り、積極的に検診を勧めてきた。

②環境美化委員会

家族の方の協力を得て、6月28日、12月27日に奉仕活動日を計画し、本所と作業棟に分かれ作業室・食堂などの清掃・整理・ワックスがけ等を行い、環境美化に努めた。また、気持ちよく通所できるように、花の世話や草取りなどを利用者さんと一緒に行ってきた結果、自ら進んで草取りをしてくれる利用者さんも見られるようになり、大変喜ばしいことだった。

③安全委員会

- ・ 会議や朝のミーティングなどで事故防止に関する話し合いを適時行ってきた。
- ・ 毎月1回施設内外の設備点検を行い、不良箇所の修正に努めている。
- ・ 事故報告書やヒヤリハット報告書への記録と公開をした。
- ・ 防災担当者で毎月1回会議を開き、これまでCHの防災備品や各施設へのシュラフの設置等を行ってきた。今後は防災食料品や福祉避難所、また、個人薬の保管等について話し合っていく予定である。

4 行事・バザー報告

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	個別面談 野外活動Ⅰ（花見）(4)	サビ管	○					
5	お話の会(9) 野外活動Ⅱ（ボウリング）(20)			○				
6	大掃除(28)	環境美化委員会	○		ヤマハジャンボリー（2）			
7	お話の会(11)			○				
8	野外活動Ⅲ（浜松博物館）(16) 活動参観及び懇談会(23)		○					
9	プール体験(9) お話の会(12)			○				
10	野外活動Ⅳ（ウォーキング）(7)		○		地域交流会バザー（中止）			
11	野外活動Ⅴ（ミニ旅行）(8) お話の会(14)			○	ふくでふれあいまつり(3) フェスティバル豊田(3) 光る子まつり(16)			
12	ヤマハ労連観劇(5) クリスマス会(19) 大掃除(27)	環境美化委員会	○					
1	初詣・新年会(6) お話の会(9)			○				
2	豆まき(3) 個別面談	サビ管	○					
3	ボランティアさんに感謝する会(13) お話の会(13)			○ ○				
他	4～11月 ひろ道ウォーク実施 BDショッピング（誕生月実施） ※第2回家族懇談会(4/18)		○					

5 職員研修

年間計画を基に研修担当者で企画の立案と実施を行った。主に、水曜日の午後の時間を研修活動に充て、法人全体研修6回、内部研修会3回の計9回の研修活動を実施した。

今年度は、出張報告や防災ビデオ鑑賞、感染症の事例発表なども行い、職員の資質向上や、心身のリフレッシュを図ることが出来た。鑑賞した防災ビデオでは、東日本大震災の障害者の現状を垣間見ることが出来、今後の職員の意識のあり方や福祉施設のあり方などを改めて考える良い機会となった。次年度からの活動にも、問題提起できるような内容を盛り込み、更なる支援の質の向上を図りたい。

<活動内容>

日付	内容	担当者
5/29	計画相談・地域療育支援センター・地域生活支援事業・ケアホームの事業報告、理事長の話（合同研修会）	各担当者
6/5	日中活動支援部会基調講演読み合わせ（合同研修会）	研修担当者
9/4	自閉症DVD第1巻鑑賞、理事長・松ぼっくり管理者の話（合同研修会）	研修担当者
10/30	心と体をほぐす体操「ケアする人のケアタイム」ストレッチ、肩こり・腰痛予防、瞑想（合同研修会）	研修担当者
11/27	感染症について（予備知識と事例報告）（合同研修会）	生活保健委員会
12/25	出張報告「職員の資質向上について」松ぼっくり管理者の話（内部研修会）	研修担当者
2/6	自閉症DVD第2巻鑑賞（内部研修会）	研修担当者
3/12	自己評価の結果発表と検討会（内部研修会）	研修担当者
3/29	自己評価の発表、防災DVD鑑賞、そるとぼつと管理者・理事長の話（合同研修会）	研修担当者

13. 相談・福田チーム検討会

施設等で受ける相談については、リーダー・地域生活支援担当者を中心に、市町指定相談事業所・地域療育支援センターなどの関係機関と連携をとりながら、地域からの相談に応じる。内容は、通所に関する相談・学齢児の長期休暇時や放課後の支援相談・進路相談、在宅者への支援等。

また福田地区在宅者のケース検討会（福田チーム検討会）に参加。地区内の各機関が一致した認識をもつことができ、協力して地域生活支援を行っていく土台作りの場となっている。今年度は5回実施した。

14. 中遠地域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱（厚生労働省通知）に基づき、障害福祉に関するシステムづくり（相談支援事業等）のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置し、幹事会、代表者会、作業部会（専門部会）をもって構成されている。

中遠地域自立支援協議会への参加については、今年度も法人全体で担当職員を決めて、その職員を中心に必要に応じて職員も参加した。

作業部会（精神部会、知的・身体部会）に参加するとともに、知的・身体部会では、「乳幼児期」「就労」「地域生活支援」「重心部会」「防災部会」の各専門部会に参加、そして「地域生

活支援専門部会」では、6つの課題別検討会～「グループホーム」「ショートステイ」「相談支援事業から見える在宅支援」「送迎サービス」「余暇支援」「自閉症・行動障害」～にそれぞれ積極的に参加。

これらの内、「グループホーム」「送迎サービス」「自閉症・行動障害」の担当責任者及び「地域生活支援専門部会」全体のまとめ役や「防災部会」も福浜会が担当している。また今年度から、「知的・身体部会」の「重心の在宅支援検討会」が「重心在宅支援専門部会」としてスタートしたが、当法人が担当責任者となった。この「重心部会」では、今年度も相談支援事業所や協力施設並びに特別支援学校と協力して、平成25年12月9日に2回目の事業所説明会を開催した。このような情報発信が継続していくことが望ましい。また次年度は、自立支援協議会として中遠地区と東遠地区合同の中東遠圏域の会議を、圏域スーパーバイザーと協力して開催する計画である。方向性として、医療関係者にも呼び掛け、幅広い分野からの参加者を交え、在宅支援サービスの充実に向けた取り組みしていく予定である。

平成25年度指定特定・障害児相談支援事業所「結」 事業報告

1. 平成24年10月より磐田市の認可を受けて実施する。

(1)事業概要

障害者（児）の自立した生活を支え、障害者（児）の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援する。

(2)対象者

- ・ 障害福祉サービスまたは地域相談支援を利用するすべての障害者
- ・ 障害福祉サービスを利用するすべての障害児

(3)対象地域・・・磐田市、袋井市

(4)内容

①計画相談支援

○支給決定時（サービス利用支援・障害児支援利用援助）

- ・ 支給決定又は支給決定の変更前に、サービス等利用計画・障害児支援利用計画（以下、「計画」という。）案を作成
- ・ 支給決定又は変更後、サービス事業者等との連絡調整、計画の作成

○支給決定後（継続サービス利用支援・継続障害児支援利用援助）

- ・ 厚生労働省令で定める期間ごとに、サービス等の利用状況の検証を行い計画の見直しを行う（モニタリング）。
- ・ サービス事業者等の連絡調整、支給決定又は支給決定の変更に係る申請の勧奨。

②基本相談支援

- ・ 障害者や障害児からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言等の他、必要な便宜を供与する支援

2. 平成25年度を振り返って

- ① 磐田市ではサービスの支給期限や区分の認定期限が切れる時期に計画相談を入れる方法をとっている為、対象者の多い月は一事業所でやり切れる数を上回る依頼があった。依頼の比較的少ない月との計画作成数の格差が目立った。
- ② 計画作成後も引き続き自宅訪問、家族支援等の相談支援が必要となるケースもあるが、そのようなケースの場合は市の委託を受けている一般相談の事業所や就労・生活支援センター、または包括支援センターや介護保険のケアマネジャー等と連携しながら対応することが多かった。
- ③ 磐田市の場合、児童には全員、計画相談が入っている状態で、結にもこれまで10名の方からの依頼があり計画を作成している。内容は児童発達支援の事業所利用、放課後等デイサービスの利用が主となっている。そのうちの半数近くは利用している事業所に相談支援事業所が創設された為、そちらに移行している。
- ④ 平成25年8月に、中遠自立支援協議会の中で相談支援専門員連絡会が立ち上がり、磐田市と袋井市合わせて10カ所の相談支援事業所が参加している。年度内に4回の連絡会が開催され、今後の内容としては各事業所の抱える課題の検討やスキルアップの研修等が計画されている。

平成25年度の計画作成数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画作成	2	2	5	10	13	13	8	13	10	7	19	26	128
(児童)	1	1	3	0	1	0	1	1	1	1	0	1	11
合計	3	3	8	10	14	13	9	14	11	8	19	27	139
モニタリング	0	0	1	1	3	10	0	1	3	10	12	21	62
(児童)	1	1	3	2	4	0	0	1	2	2	2	1	19
合計	1	1	4	3	7	10	0	2	5	12	14	22	81

平成25年度地域療育支援センター「結」 事業報告

1. 平成25年度の状況

登録者数 33人

在宅支援訪問療育等指導事業 実人員 12人 延べ回数 18回

在宅支援外来療育等指導事業 実人員 22人 延べ回数 22回

施設支援一般指導事業 0回

2. 内容について

- ・福祉サービスの利用援助・情報提供
- ・就労に関する支援
- ・ケアホーム・グループホーム等の住まいについて
- ・生活支援について など

3. 地域療育支援センター事業の廃止と療育三事業について

平成24年度をもってコーディネーター事業は廃止され、療育三事業については、平成25年度以降も県から引き続き委託を受けることとなった。訪問療育では前年までコーディネーター事業を行っていた関係で、引き続き支援の必要な方について、一般相談事業所だけではやり切れない部分を継続して訪問支援を行った。外来療育については主に地域生活支援事業の利用希望の方で、サービス利用以外の部分の相談を受けた場合に計上した形となった。

サービス等利用計画の作成がすすめられている状況の中で、サービス利用に至れば計画相談が入り、特に訪問療育の中ではそちらに引き継いだケースも多くあった。

平成25年度 地域生活支援事業活動報告書

静岡県及び各市町が定めた「地域生活支援事業」及び「障害児者ライフサポート事業」実施要綱等に基づき、3市1町の委託を受けて地域生活支援事業・ライフサポート事業・福祉有償運送を実施。利用者さん等からの依頼を受け、必要に応じた地域生活支援サービスを提供することにより、障がいのある人やその家族が地域で安心して生活できるための支援を行った。

今年度実施したサービス内容等は次のとおり。

1. 提供サービス内容

地域生活支援事業（提供市町村：磐田市、袋井市、掛川市及び森町）

日中一時支援事業

移動支援事業（袋井市：外出介護事業）

ライフサポート事業（提供市町村：磐田市、袋井市及び掛川市）

ヘルパー派遣（自宅等での支援、外出支援、送迎サービス）、デイサービス

福祉有償運送（提供市町村：磐田市、袋井市及び掛川市）

2. サービス提供時間

原則として6：00～22：00で対応し、支援を実施した。

3. 利用状況

施設利用者さんや特別支援学校の生徒さんからの依頼が中心だった。新規の依頼も、増加傾向にあり、施設見学や面談をその都度実施して、要望をお聞きした。契約するにあたっては受け入れ体制の整備をしてから対応している。そのために実施新規登録ヘルパーの採用や、法人内施設の職員体制についての相談をして対応した。

移動支援に関しては、その目的に沿い、余暇活動の充実のための支援を行なった。健康維持のための散歩の依頼や、公共交通機関を利用しての外出の依頼があった。

特別支援学校の長期休暇時には、毎年のように依頼が増加傾向にある。

サービス提供時間に関しては、早朝や夜間の支援依頼はほとんどなかった。依頼の内容は、8：00～19：00の時間内に集中していた。

森町に関しては、送迎を含む支援を実施したが、やライフサポート事業の契約をしていないため、森町担当者に相談して日中一時支援での請求をした。

菊川市の方から、相談支援事業所を通して相談はあったが、市との契約などもしていなかったため、支援には至らなかった。東遠地区からの依頼は数件あったが、相談支援事業所と情報交換をしながら、地域での受け入れを基本にしながらも必要に応じて受け入れる方向で考えていった。

4. その他

土、日曜日や祝祭日などの施設の閉所日の支援に関しては、ヘルパーさんに依頼をしていることが多いため、その時に、大災害等があった場合の対応について、法人としての検討を進めている。

また、大きな事故や利用者さんに怪我などというようなものではなかったが、支援の内容などについて、問い合わせが数件あり、そのつご家族へ説明をしてきた。

別表

H25 地域生活支援事業 月別実績件数

磐田市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H24
ライフサポート	59	80	70	73	23	92	80	106	64	91	95	72	905	694
日中一時	164	178	174	208	232	175	195	187	168	164	175	195	2215	1751
移動支援	6	10	4	8	5	8	6	7	7	4	9	4	78	66
合計	229	268	248	289	260	275	281	300	239	259	279	271	3198	2511

袋井市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H24
ライフサポート	13	15	16	11	13	13	16	19	17	26	20	27	206	173
日中一時	55	82	75	105	104	66	77	77	77	72	75	67	932	693
外出介護	3	0	3	2	0	0	0	1	0	0	0	0	9	23
合計	71	97	94	118	117	79	93	97	94	98	95	94	1147	889

森町

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H24
日中一時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0
外出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0

掛川市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H24
日中一時	0	0	0	1	0	4	4	0	0	7	10	7	33	36
合計	0	0	0	1	0	4	4	0	0	7	10	7	33	36

平成25年度 共同生活介護事業「汐風」活動報告

1. 入居者さん及び各ケアホームの状況

ケアホームは4ヶ所すべてのケアホームも大きな事故等はなく、生活を送ることが出来た。大規模地震災害を想定した避難誘導訓練を実施した。

【汐 風】

入居者さん1名が退去されたことに伴い、新たに1名の方（女性）が入居した。彼女の通所する法人内施設との情報交換を行ないながら、生活の場として必要な助言、サービス提供を行なった。また、入居者さん同士、良好な関係が構築されるように配慮した。365日の支援が必要ということで、土日祝の世話人を配置し、休日中の昼間の所在確認、様子伺いを行なった。年末年始には、世話人の協力を得て、一時的に他ホームでの生活を行なった。

インフルエンザに感染した入居者さんが出たため、感染拡大防止のため、他の入居者さんについて、ご家族の協力を得て実家にて過ごしてもらった。

【あしたば】

全身性障がいのある入居者さんからの通院や買い物などの依頼が増え、地域生活支援事業を利用していただき、対応をした。また、家族の方も特別養護老人ホームに入居されたこともあり、自宅に帰ることはなくなりケアホームにて生活をしている。

クリスマス会や外出など、その時期に合わせて入居者さんと世話人とが共同で外出や料理作りの企画を起案し、実施した。

【日 和】

入居者さん1名が退去されたことに伴い、新たに1名の方（男性）が入居した。彼の通所する法人内施設との情報交換を行ないながら、生活の場として必要な助言、サービス提供を行なった。また、入居者さん同士、良好な関係が構築されるように配慮した。

日頃行なえない掃除や、入居者さんの把握のことを考えて、勤務時間の変更をして業務の見直しを行なった。

【みぎわ】

一部の入居者さんの朝の支度が送れることで、世話人業務にも支障が出たので、改善するために、その入居者が通所する職員と世話人で情報交換をした。物品購入については法人内担当職員とで相談して行なった。余暇の広がり、充実のために、皆で楽しめる物を考え、地元のイベントへの参加やクリスマス会などを行なった。

2. 世話人体制

汐風、日和、みぎわは世話人一人体制で行う。あしたばは、全身性障がいの方がいるため、時間帯によって2人体制で行った。日和の宿直は週2回で対応をした。日和以外のケアホームの夜間体制は、毎日1名が宿直している。また、支援者、宿直者の不足に伴い、バックアップ職員や、世話人に入ってもらするなど全体でフォローして行った。

また、入居者さんの状況に合わせて、世話人の体制を変えるなどの対応をした。

3. 健康管理

毎朝のバイタルチェックとして検温を行い、健康管理に留意した。食事に関しては、肥満等の予防も兼ね、栄養バランスなど考えた世話人の手作り料理を提供している。就寝前後、起床前後のエアコンなどの温度調節、管理を行う。

また、時間があるときには、入居者さんと散歩に出かけ、体力維持、運動不足解消を行ったが、年齢にともないだんだんと体重が増えてしまう方もいた。

4. 支援

入居者さんより、外出や交流会の希望が出て、世話人と相談し、それぞれのケアホームで計画を立てて余暇を楽しく過ごしている。また、ケアホームによっては、外出に行かないため、いつもとは違ったものを買ってきてみんなで食事をするなど、各ケアホームに合わせて余暇活動にメリハリをつけて楽しんで生活を送った。

5. その他

各ケアホームの世話人とバックアップ職員と定期的に話し合いを行い、ケース、問題等の確認をしたが、世話人との情報の共有が難しい面もあり、課題であった。また、バックアップに入ったときに世話人との情報交換なども行った。

世話人の勤務状況や支援方法については、その理念や目的にそって研修等を重ねて理解を得る努力はしたが、なかなか上手く伝わらず、その都度話を行った。

防災対策については、法人内の各施設等の防火管理者とも協力しながら、大災害などに備えた内容に見直していく必要があり、法人の防災関係者が会議を行い、災害時の対応を検討している。

そのなかで必要な物品をそれぞれのホームへ購入した。非常食についても整備をし、飲食料を世話人分含めて3日分を用意した。また、MCA無線機、トランシーバーの活用も世話人へ伝えた。

みぎわに関しては、海にも近いこともあり、津波への配慮も考えるなか、外国での大地震の際に津波警報が発令された時には、担当職員間で連絡を取り合い、朝駆けつけたこともあった。